

兵庫縣漁業慣行錄參考書

之水部 鹹水漁業

卷之十一

兵庫縣漁業慣行錄參考書卷之十一 鹹水漁業本部

播磨國揖西郡

第壹號 鰯細漁法及小鰯採場約定ノ事

此度約定之事

一 鰯之採場 大宮港 拾國羽

一 鰯之採場 小宮港 八國羽

右之通網入候共々ソリ一度叩キ候事

大但之沖糸浜間生藻網入候共海上叩キ亦若船ハ夕叩キ

候儀ハ堅致ス間敷候事

一 此度中職採場之義ハ東ハ古宮境ヨリ西ハ室津境迄入

相ニテ相採候事不及申若船網換ニ候節ハ相互ニ手傳

助合可致候事

且又約定相違候儀ハ之ノ外ハ一兩卷斗並テ約定相違候

得小船細共急度預可申事

明治五年壬申十月

[Faded text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

第貳節

苧屋浦字繩志欠之濱場之付裁判申渡ノ事

揖西郡

苧屋村

正慶元年後醍醐天皇隱岐國へ御遷幸有之全二年五月御歸路之砌当國御通輿之林当國王赤松家へ供御之奠調進可仕旨御沙汰之依之領地当浦方ヨリ献上仕候其後光明天皇御宇以来任御吉例御菜之奠赤松家ヨリ生鯛拾五枚宛調進仕来候知赤松則祐以来揖西郡城山之城主滿祐嘉吉年中落城後全家子孫連々盛衰打統キ当國之城主遂及滅亡其後時勢変革ニ依リ時之領主へ毎年為御菜代銀拾五匁宛上納仕来候則子御免状之記載有之候依リ御菜之濱場小相唱罷在候兵宝年中之頃本村ヨリ一里許西之

出屋敷下社之西三軒漢師出来（是日漢業之地）此浦ヨリ
西手ニ字亦已シ免シト申處ニテ當村ト故障出来時之領
主ハ謝出裁許書左ニ

此度出屋敷之者及屋浦ハハ無沙汰ニテ根ニテ細
ヲ拵繩志免シ之前ニテ及屋之獵師ト喧嘩セシノ遂ニ
明候及出屋敷之者非分ニテ候此後何何ヲ仕出ニ候
共一々及屋浦ハ相断リ互ニ中ヨク致ニ可申候此旨自
今以後違背有間敷者也

天和二年戌年四月十一日

澤村吉左工門
佐々彦兵五
岩村馬左工門
岩倉理左工門

第三號

為屋浦御菜細代ヲ揖浦（相ノ岩見）ハ貸與
等ノ事及同場ノ内冲手新開目論見中ヲ

除クノ事

○其一

覺

一伊津浦冲手為屋村支配細代之儀先年ヨリ揖浦ハ貸渡
有之候及近来我儀ニ取ノ候段及兼旧冬東左工門手元
ハ引上ケ免ニ為屋村同屋株之儀モ同断引上ケ候得共
猶亦令差略当年限為試貸渡有之由相聞候然ルニ右浦
方近年家数モ相増以前之振合大ニ令相違素ヨリ田畑
無之漢畫一遍之場所柄平等ニ趣法立不遣テハ永久家
業可相營方便モ有之間敷於上モ及後年御救可尋思之
事ニ候依之違々申調不向後心得方左ニ申達

一 苧屋村綱代

四十島

中 梟

投 石

右丈々浦方、可貸渡其内中梟、所ハ同浦伊右工門ハ
 当年毛貸渡度且同人親源四郎存生中同様永々借請度
 内存尋丈々令美知候右場所真附第一之綱代ニ先年源
 四郎公事出入之節教度令上坂尋骨折候者ヲ以同人生涯
 石綱代引請居候事之由右ハ甚不當之至ニ有之現ニ其砌
 源四郎ハ格別之沙汰ヲ以山畑等被下置候儀ハ如何相心
 得居候哉畢竟惣浦人民而救方之儀、当リ骨折相働候者
 ニ付被群之御賞美被遺候事ニ有之候然ハ處不孫ニ至候
 速重々自由々間敷不筋之儀申之候飯心得違沙汰之限ニ

候源四郎存生ニ毛候得ハ急度申付品モ有之候得共万端
 逸去候事ニ付及用捨候且又伊右工門当年綱代借受之儀
 ハ兼々但冬以未令約定候趣ニ付格別之申慈悲ヲ以其依
 差免遺候条未卯年ヨリ右綱代都テ浦方一統ハ貸渡候毎
 歲前同所手尋圍引取テ諸事實意ヲ以相互ニ家業可励事
 但ニ先年公事出入以後浦方一統永年渡世相調候儀御
 因思ハ不及申随テ苧屋村ニ古キ書類依令所持論所勝
 一和之一助ニ相成候事浦方之者共思儀亡却無之夕々借
 受之一札毎歲同村ハ可差入候勿論村苧屋村モ右綱代
 向後容易ニ取テ難相成筋ニ有之候
 一苧屋村權左工門持細代鷲崎右此度手張ニ致度旨申出
 候此凡ハ伊津浦之儀ハ前段之通漢業一通ニ場所外村
 方百姓共見競ニハ相成間敷無申迄成夫々漢父共渡世

差障無之樣可相心得勿論百姓相統之若外渡世樣方之
 傳不奴勇之有之候得共近年及貧窮居候由二付乘届産
 三候尤表向手張申出置別人相カ夕ラ亡合渡事働候事
 八可差留候自註及後年右様之候村有之者細代取上
 急度可申付候事

一伊津浦原之助傳近年中買同様令商賣候由如何之筋合
 二右様相働候事或全体株立候賣向夫々定法モ有之
 容易之取扱候事難相成筋之有之候依テ此度急度紀之
 上後取取上可申答之知不筋之候年久少譲リ請尋
 三何下ナク令渡世居候由敷銀等モ有之忽可及極難且
 是等之候ニ付テハ御合筋モ有之帝格別之御憐愍ヲ以
 先暫其供差置遣之候申近ナク前条本株之問屋ハ差障
 無之樣可相心得尤向後同浦細細三疊之内仕来之通出

来納走置元細半分引請可令賣買其余地御領ヨリ持込
 候漢父共ニ於テハ旧株問屋差交不申様互ニ助成之心
 得之云和融之上及熟談家業可當候事
 右之趣得其意惣浦之若共令一和家業可相働旨可申付候
 自註背々問敷申出候モ、於有之ハ夫々人名尋相改急度
 答可申付候以上
 一 三月十四日
 勝田權三郎
 中 石右工門

其二 冲手支配菊屋村庄屋
 兼大庄屋

村尾平右工門殿
 中産彦右工門殿

新屋村

三九郎殿

○其二

御菜細代場借受証

投石細代

一運上金壹円廿五錢

宮出三細代

高洲細代

右、素心亥年張場我等共、而借受申上候、相違無申座候、而運上之儀、公十月廿日限無違帶相細、可申候、依于如件、
明治七年十一月

第十三區第八小區

伊津村

坂本佐四郎

古西宗左五門

大西典三郎

全大小區及屋村

二尋戶長 村田尚慶殿

村尾當茂殿

三尋戶長 三浦甚次郎殿

○其三

出賃問屋借受証

御菜場村

一生負問屋株

此税金五拾錢

但老年分

右問屋株当浦方、当安年日、以来正卯年迄五十年之間、是
迄之通商貨附被下依之大切、相勤税金之儀、毎年十二
月廿日限り無滞相納、可申、為後証、年季借受一札如件
明治八年二月

第十三大區茅八十區

伊津浦總代

山本久右工門

戸長

上西忠五郎

全大十區及屋村

戸長 村田尚慶殿

戸長 尾當茂殿

戸長 三浦甚次郎殿

右之通り証書細代場、毎年負問屋、五十年毎之徑古、
り差入罷在候事

第四號

一安永年中當浦沖手新開御目論見二月六日御代官青木楠五郎御謝二付左之通申立候願書写

乍恐奉願上候事

一先達于御見分之上當村地先寄剛新開御吟味被仰付其節御吟味之上私共申口之趣日以御窺被成下候如今般御下知被仰出右場所之内高内荒年旧干中物成等之分ハ新開之不被及御砂汰其余全寄剛空地之分ハ公儀日リ新開被仰付候于毛差障無之般先達于申上候二月廿五日洲高二毛相成候節ハ新開可被仰付二付右地境定杭被仰付候間私共御案内仕右境通葉竹ヲ建御見分之後右御代杭外ニ相成全御料所地内ニ罷成候之様奉存候然此般右被石之儀或往古禁裏御某調進之漢獵場所

二于当村三村候漢場三于猶唯今少物成場三市座候間
何辛右投石之分三市定杭市除市打渡被感下候様仕度
奉願上候以上三市

播磨國揖西郡菊屋村

安永九年十二月二十日

大庄屋 村田典左五門

重石口門

喜兵衛

百姓代

兵衛

青木楠五郎殿

以切紙致啓上候甚寒之節市座候得共各様殊市堅固被成
市勤珍重奉存候也三市領分地先播及細干海表附洲新開

之儀三竹先達三市相紀候趣三以楠五郎三市市勤定所三市相
伺置候也右寄洲之儀三市旧干高請又三市少物成場等三市
新開吟味之儀三市不被及市沙汰候間此市村三市申渡九吟
味中村三市之帳面三市封致置候分三市解干渡先見分之節地境
等三市目印打置候杭之分三市取拂候様是亦村三市申渡三市且
高請少物成場之外水中寄洲等葎草生候場所三市公儀新聞
二相成候三市毛差障無之旨先達三市村三市申立候三市竹造三市洲
高二相成新聞引受人等市之節吟味之積り地境三市り定之
杭打渡置候様三市可致旨此度市下知被仰渡右右之趣市役
人中三市市一司於市勤定所被仰渡候之段申来候間市兼
知可被成被存候依之楠五郎像来十五日市役宅出立右場
所三市罷越候積三市市座候九年内日間無之三市竹為手廻之右
地境三市案竹三市置場所見分請候様村三市被仰渡候様致度

候右之段可得御意者柳五郎申付如此御座候以上

十二月十三日

山岡禮右工門

京極能登守様

御役人中様

[Faded handwritten text in a vertical column, likely bleed-through from the reverse side.]

第五號

禁裏調進ノ御某細代場由緒无類献上之

事

○其一

序ニモノニ待レ我家ニ傳フ御某細代ノ濫觴ハ昔時
神功皇后三韓ヨリ御歸洛ノ御時投石ノ辺リニ暫ク以掛
リガ以給フ其時浦ノ長ヨリ一ツノ紅鼻長ク夾余ナルモ
ノヲ捧ケレハ 戲厨殊ニナノソナラスユハ目出タイイ
ヲ下勅リアリモヨリイヲノ灘イヲノ津イヲノ湊川ヲイ
ヲ川スベテイヲ下イヲ以テ所ノ名ニ呼トカヤ干原ノ
浦トイ、モハムカニモ以干ヌレハ飛嶋ノ辺リ一面遠干
カタト成テ目モトハカサリモユヘ其名残レリサレハ玉
葉集ニ

冷泉為家卿

暮之間三野キツル夕夕ニホノヒル夕夕浦ニアマノ袖

又新統古今集ニ

際キ夜ニ森サノテギクハ播ケカタイヲハ漢ニ子鳥啼

大江喜言

是等三ノ見ルベシ其後星霜程フリテ伊保ト呼ナラニ遂

一不六谷郡トナリ又分レテ揖ノ東揖ノ西トナラ郡ニ十

リ中古後醍醐帝隱岐ヨリ御還幸アリ以時当国嶋ノ宿

ニ御止宿アラセラレ侍御ノ奥菽原伯耆守ノ御沙汰アリ

之ヨリ其昔浦ノ長ハ仰付ラレ直ニ鯛魚ヲ嶋ノ宿ハ捧ケ

奉ル獻慮料ナラハ又光明帝ノ御即位アリモ砌モ先帝重

祿ノ御吉例ニ依リ御菜ハ鯛魚調進ノ多御沙汰アル生鯛

十五枚ヲ捧ケ奉ル夫ヨリ鯛ヲトリモ所ニ御菜細代ト唱

テ授石四十嶋鷲崎ノ三細代トモテ此浦ヨリ鯛魚ヲ奉リ

ニ事吉例トナリ世々ノ帝ハ年毎ニ紅魚ヲ調進奉リテ下

行州ヨリ不ヲ給ル事歳久シカリケルカ其後大閻秀吉公朝

鮮征伐ニ夕ノ頃此浦ヨリモ教多ノ加子ヲ召レテ喚リノ

ナリワニ暇ナキマハニ蘇ラ白金ヲ以テ御菜代ト名ツテ

奉リ浦後ヲ免サレ夫ヨリコノカ父貢ト等ニク時ノ因ツ

カサハ納メ奉ル事今モカワラサリモコノ細代ニ附キモ

天文年中ノ旧記我家ニ持傳ヘ侍リモ夕過ニ正保ノ頃サ

ル事アリテ南都ノ尊中ニ夕子ニ納リケル後ノ子孫時ヲ

得テ申降スベシ

延宝三年二月

村尾孫左門當長

記録

系

系

系

安永元年十二月廿日旧幕御代官青木楠五郎殿ハ七書上
有之候事

其二

鯛

二尾

石五例之後ハ奉供

天覽度旧託相係此段御執之奏之程奉仰候以上

播磨国揖西郡苅屋村

平民惣代

明治十八年八月八日

長尾伊兵衛

村尾昌誠

村奈賀金造

村田甚十郎

村田尚壽

戸長 上田重清

宮内省御中

此時生鯛或尾ヲ奉献リ且ハ御採納アリテ稍暫時ニテ後
至金壹封下賜相成又リ拜戴ニテ後封金ハ金五円十リ度
ニ託之置

第六節

伊津浦 見村 空津 漢場 事論裁許

事

差上申一札

謝訟方播及揖西郡伊津浦漢師共多漢方之義、同及同郡
 蒞屋村、以支配、受、同、同、郡、空津漢師共、互、漢場
 入會相稼候仕来、有之候、空津漢師共、以、漢方相妨難
 儀之旨、右漢師共相手取七年以前、本年八月廿五日、伊津浦
 漢師共、訴狀、差上、同、九月十三日、對決、被仰付候、伊津浦
 漢場、等、申、海、一、切、無、之、同、所、並、蒞、屋、村、地、先、之、海、一、相、手
 方、空、津、漢、場、之、師、座、候、越、相、手、方、以、以、返、答、書、差、上、候、之、付、被
 達、吟、味、候、決、計、茲、方、申、立、候、以、往、右、以、蒞、屋、村、之、漢、師、共、有
 之、諸、原、共、往、來、漢、場、之、事、以、同、村、以、以、道、法、一、里、程、西、以、右、村
 方、之、師、同、領、同、州、同、郡、空、津、漢、場、以、申、候、有、之、右、地、先、之、海、以、以、伊

系

津浦ハ六七丁程北ハ入江ニ相成有之同所西手ニ葭屋村
 之内江ノ濱ト申所ト相手方室津之内松ノ浦ト申所之間
 三柳ノ岩ト申有之石石ヨリ西ハ室津東ハ葭屋村南領
 主陸地中領分境ニテ右石ヨリ真直ニ沖手南ハ見通ニ葭
 屋村室津澳師共澳場境ニ相立右澳方境ヨリ東ハ葭屋村
 ト内村南口領内州口郡濱田村ト之村境ニ有之揖楯川筋
 近東西各里半程南北ハ地方ヨリ海上三里程沖ニ惣名家
 鳴下唱候相手方内領之島ニ有之右海上中央ヨリ地方
 懸ノ各里半程之間在古ヨリ葭屋村澳場ニ相極ノ石場
 穴上室津地先同穴澳場穴岸沖之無差別双方互ニ入會澳
 仕罷在候穴四十年程以前ヨリ葭屋村諸漁共相止ノ其砌
 ヲリ右澳場伊津浦ハ讓リ矣室津ト入會澳稼任來新規之
 事ニテ無之カ伊津浦ハ同州同郡伊津村ヨリ之出御ニ候
 得共澳方於ハ葭屋村ヨリ之支配受罷在候由謝該方ヨリ

リ申立候穴相手方ヨリハ謝該方伊津浦先ニ葭屋村之兼
 陸地ハ室津ト御領主違ニ候得共右伊津浦葭屋村地先ハ
 御他領ニ候共地先海上之家ハ室津之澳場ニテ謝該方澳
 場之海ニハ澳ト無之三十年程以前ヨリ伊津浦ニ新規之
 澳稼相始メ近頃ニ至致增長候ニ付八年以前不及御公謝
 候得共爭論有之其節同刑師東郡師萬津妻鹿屋五郎左卫
 門取噴ヲ以致和談同人ヨリ双方ハ取噴証文差越和談之
 上伊津浦先ニ葭屋村之地先ニテ伊津浦ヨリ澳事致事ハ
 室津ヨリ差免遺室津之地先ハ不入以差ニ相極置候穴
 近頃及遺廢室津之地先是ニ入以候間以前之通右差免置
 候知之澳事ニ差留度旨相手方室津ヨリ申立双方ト右
 五郎左卫門ヨリ取置候換抄証文差出候穴相手方ハ取置

候証文文面三、八獅ヶ岩ヨリ空津之方、伊津浦ヨリ細引
 候事遠慮不々空津ヨリ、八双方之漢場トモ入込候事
 有之証文方伊津浦ハ取置証文、空津之方ハ入込候事不
 致遠慮不々事ハ認無之勿論九様之致和談候事、無之至
 二入會候事、和談致候赴申之申事罷在候右証文文言致
 齟齬殊五郎左工門ヨリ之挨拶証文而已、二互々為取換
 証文不取置候故申事候仕傳、相成双方共不會、廿右
 村、ハ此上可申立様無之趣申候、廿左、ハ証文方漢
 方前々ヨリ空津ト互々入會罷在候証文之事被成申尋候
 如漢方運上銀六拾目同屋運上銀即拾目前々、八葎屋村ヨ
 リ申領主ハ納束候如漢場伊津浦村議受候後、八右納銀同所
 ヲリ葎屋村ハ相渡同村ヨリ相納罷在候其外、八葎屋村ヨ
 リ海方、八廿候運上申某代銀免々加子采下唱候納方右同
 屋運上之外、八同名目之納銀尋之納方モ有之矣、八証文書

留帳面尋差出候得共空津之方、八入込候トハ候、八不相
 分候、二廿其後証文方ハ被成申尋候如右、二廿証文ハ無之
 此上可申立様、八無之候得共何レトモ右納方之采銀、八海
 二廿候儀、二空津ヨリ申立候通前々ヨリ証文方之漢場
 一申候一切無之傳、候、八右采銀納束候事、八有之間敷
 事、二存候旨長亦証文方ヨリ申立候、二廿其趣、八以相手方
 被成申尋候如証文方漢場ト申海、八無之候得共岸際權
 二、船往來相成候淺瀬之所、二漢致候事、八擢立碑漢ト
 唱空津ヨリ差構不申仕來、二、証文方ヨリ申領主、八右
 納方采銀、八事、二廿分之事、候間右磯漢之運上納方、二可
 有之空津ヨリ申領主、八相納候漢方運上金免加子采尋、二
 代錢、二、往古ヨリ相納右銀錢高毛格別多分、二、其上伊

其
 其
 其

津浦元二、葦屋村之地先二、不約室津ヨリ道法十里程東同
 州加古郡西二見村ト同州同郡古宮村ト、村境之知ヨリ
 南沖二有之家嶋之内字龜島ト唱候島、南北見通二致西
 八室津港ヨリ即拾丁斗沖中二有之君島ヨリ同沖二有之
 家島之内字隱下島ト南北見通二致右古宮村之村端ヨリ
 君島之内字陸地十里程龜島ヨリ隱下島迄島々教ヶ所有
 之東西是亦十里程之間島統相成有之惣名家嶋ト唱候不
 殘室津ト御同領島二、テ都テ右御同領ト、姫路領ト唱
 未陸地二、ハ誦詔方伊津浦元葦屋村其外右御同領又ハ御
 料或ハ外御私領桑村々入交有之候得共陸地之御料御他
 領二不拘右島々一円之間姫路御領之方ハ付候海上申傳
 御同領村々之内ト浦役海役ト西役相立有之浦役斗相勤
 候村方二ハ澳場ト申海無之權立然澳ハ江來申候海役之

我ハ室津元御同領外村々共二十五ヶ村澳師共ヨリ相勤
 前書姫路御領分ハ付候海上ト右澳師共向寄々ト澳場ト
 極メ御同領同上ハ互々入會候我モ有之候得共御他領之
 澳師入心セ不申誦詔方ハ浦役之村方ト可有之浦役ハ浦
 觸書経送又ハ諸廻姫洲先尋ハ馳上リ候分斗取計沖手ノ
 難船取計不致室津ト於テハ沖手難船取計候由二テ是迄
 之難船証文教通差出候得共誦詔方二テモ取計未候沖手
 難船証文教通取置有之ニ付差出右迄ニ無之都テ沖手之
 候モ支配致未則御領主ヨリ葦屋村ト被未置御製札表ト
 七海上通行之諸廻船之取計ニ付テ之取計元ト船方作方御
 制禁之条々御記有之
 公傍ヨリ之浦御觸書之趣ニテ隨テ琉球人通行其外トモ
 沖手ハ拘リ候事夫々手傳等致候旨誦詔方ヨリ申立候矣

系

相手方受者矣申春候公右師同文官之師制札姫路師領甫
 役手り村方一七有之師浦觸二村之手當之參七同事
 二候得共海役不相動候故澳場下申海ハ無之定法二付姫
 路師領分海役之村方同事七誦訟方二一沖方難船等之取
 手致候下七難船取討之參ハ海役金七勤二ハ無之姫路師
 領澳師夫手り相動候重七役之參ハ朝鮮人來朝之節陸地
 師科先師他領入交有之候二不拘空津ヨリ東ハ向テ同州
 明石郡明石屯之海上漕船引船差出歸帆之節ハ明石ヨリ
 送來空津於テ姫路師領分之後船ト仰リ合相動備前表迄
 相送り公儀師役人師渡海阿蘭陀人往返因々漂着之吳因
 人因許ハ送り遣テ候節或ハ師用之縫船師大名方師來勤
 師歸國師渡海之節七同様ニ海上之働致候由夫々書留帳
 面尋差出右働不致村方ハ澳場下申海ハ無之澳場不相成

仲間兵法一テ殊ニ誦訟方之地先七空津交配又海上申候
 ハ朝鮮人來朝歸帆共刈屋村ノ地先字高洲投石四十島石
 三ハ地邊順ハ船乗揚不申為手當空津ヨリ瀬踏下唱番船
 差出候旨相手方申立候ニ付右申口ヲ以テ誦訟方ハ師尋
 被成候外朝鮮人來朝歸帆之節ト誦訟方師同領村方之
 内ニ以テ僧船引船之働ハ不致候得共增傳船引船又ハ吞水
 運二以テ師用向之節當用意後船差出右空津ヨリ淺瀬手
 當之番船差出候下沖方所々々ハ誦訟方ヨリ差出候用意
 船相結候得共空津ヨリ之番船相結居候様不見請候參ハ
 無之其外師用船又ハ師大名方師渡海之節誦訟方ヨリ役
 船尋差出候參無之候得共空津ハ澳場之事ニ依澳役ニ
 役船差出候手働尋之致候參之可有之誦訟方二ハ浦役海
 役尋差出無之勿論沖方師用船尋之働ハ拘澳場下申海無

六
 一
 一

又卜定... 凡論至... 在... 申... 合... 致... 置... 候... 申...
 之... 謝... 亦... 若... 申... 候... 丈... 相... 手... 方... 二... 五... 前... 書... 定... 法... 之... 申...
 傳... 定... 之... 極... 書... 等... 八... 思... 之... 昔... 申... 立... 罷... 在... 候... 其... 外... 謝... 訟... 方... 地... 先...
 海... 空... 津... 漢... 師... 共... 丈... 內... 甚... 右... 工... 門... 勘... 右... 工... 門... 勘... 即... 事... 每... 年... 春...
 之... 內... 細... 付... 十... 唱... 張... 居... 細... 致... 置... 候... 事... 有... 丈... 其... 砌... 八... 右... 丈... 者... 共... 三... 寸...
 新... 屋... 村... 必... 致... 出... 銀... 候... 事... 付... 右... 漢... 場... 代... 具... 貨... 丈... 由... 謝... 訟... 方... 寸...
 申... 丈... 相... 手... 方... 寸... 八... 空... 津... 之... 漢... 場... 二... 候... 得... 共... 新... 屋... 村... 之... 地... 先... 八...
 細... 網... 懸... 候... 梳... 木... 打... 候... 二... 付... 右... 細... 懸... 代... 二... 致... 出... 銀... 候... 事... 丈... 由... 申... 丈...
 其... 余... 丈... 丈... 雙... 寸... 申... 章... 候... 故... 雙... 寸... 申... 領... 主... 官... 表... 藏... 居... 數... 留... 主... 居... 役...
 入... 中... 被... 召... 出... 漢... 仕... 行... 漢... 場... 寺... 之... 律... 二... 付... 前... 丈... 申... 領... 主... 可... 寸... 丈... 定...
 法... 元... 極... 等... 丈... 有... 無... 申... 尋... 有... 丈... 候... 知... 右... 丈... 申... 毫... 漢... 場... 寺... 丈... 定... 法... 被...
 申... 渡... 置... 候... 事... 無... 丈... 官... 申... 存... 被... 申... 上... 候... 三... 付... 論... 所... 為... 申... 改... 藩... 山... 十...
 兵... 士... 樣... 仰... 手... 代... 若... 山... 東... 九... 師... 義... 角... 倉... 共... 二... 樣... 仰... 手... 代... 井... 上... 志... 藏...

殿... 被... 遺... 佛... 見... 分... 丈... 上... 插... 丈... 仰... 紀... 有... 丈... 候... 知... 最... 前... 申... 奉... 行... 所... 仰... 吟...
 味... 之... 節... 前... 糸... 口... 丈... 同... 事... 丈... 雙... 寸... 申... 章... 罷... 在... 候... 然... 上... 八... 謝... 訟... 方...
 伊... 津... 浦... 之... 寺... 相... 手... 方... 空... 津... 地... 先... 漢... 場... 寺... 互... 寸... 入... 會... 相... 樣... 候... 下... 寸...
 費... 已... 上... 申... 站... 定... 二... 寸... 元... 元... 極... 証... 據... 無... 丈... 且... 丈... 相... 手... 方... 空... 津... 漢... 師... 丈...
 候... 海... 後... 唱... 朝... 鮮... 人... 未... 朝... 往... 及... 其... 外... 公... 傳... 仰... 役... 人... 申... 渡... 海... 又... 八... 申...
 用... 前... 之... 通... 船... 或... 八... 申... 大... 名... 有... 渡... 海... 之... 節... 役... 船... 悉... 出... 陸... 地... 之... 仰... 他...
 領... 之... 不... 拘... 傳... 船... 引... 船... 丈... 仰... 致... 候... 故... 寸... 以... 寸... 仰... 他... 領... 之... 地... 先... 丈... 海...
 寸... 空... 津... 漢... 場... 寺... 二... 寸... 謝... 訟... 方... 寸... 於... 寸... 八... 右... 依... 仰... 致... 候... 事... 無... 丈... 候... 寸...
 同... 所... 地... 先... 三... 候... 共... 漢... 場... 申... 海... 無... 丈... 下... 寸... 申... 立... 是... 丈... 元... 極... 証... 據... 無...
 之... 其... 余... 三... 寸... 丈... 申... 第... 三... 寸... 雙... 寸... 申... 領... 取... 用... 難... 可... 候... 寸...
 右... 丈... 空... 丈... 仰... 見... 分... 丈... 赴... 寸... 汶... 寸... 被... 逐... 相... 紀... 彈... 候... 知... 老... 年... 同... 州... 加...
 古... 郡... 東... 三... 見... 村... 漢... 師... 丈... 寸... 同... 州... 明... 石... 郡... 林... 村... 漢... 師... 丈... 相... 手... 取... 寸...
 兩... 漢... 場... 寺... 儀... 及... 出... 入... 論... 所... 為... 仰... 見... 分... 其... 節... 丈... 仰... 仰... 官... 風... 祭... 甚... 三... 寸...

即樣師亦代沃田篤右六門殿前倉共一様師手代伊里七郎
 次殿被遺候処至津元目州赤穂郡相生浦之儀不諭外之場
 次三郎座候得共右師手代中三郎右蛸濱場論所之御引競
 之考大濱可仕表師尋有之候三林右永五申年六月相生村
 組頭五七濱師惣代三郎右六門向庄八室津手寄喜五郎濱
 師惣代十次郎右之者共一同口書之内三空津之考朝鮮
 人御用其外海手御通行之御役人方漕船御用等相動候得
 共海上之考八地先八丁之内八格別仲手八至濱場境頭分
 境下申者無之申合八他所入會次第之是也相様來右八丁
 之内八其浦之磯濱場三隣村八勿論他所他因之者三
 縁候考無之差支砌八他所他因之者三三差免濱事為致
 旨申立置候三付此度右之者共口書之處三以三師吟味御
 座候得共喜五郎十次郎等其後致死共候考三如何相心

得石依申立置候或不相知候得共左様之定法八決三無之
 旨此度相手方室津三申立候得共今更喜五郎十次郎口
 書申立候考八相違之處申立候候御取用難相成其上前書
 東二見浦下林村之出入之考三江戸表三師下知三以三
 安永七年戌三月地先八丁也三磯濱場下相心得沖手三至
 他所入會次第之赴御裁許被仰渡有之是此度出入之考三
 相極大其更濱場三致其餘沖手三至三候三他所入會
 次第濱様致候處三所之有之候於江戸表三三南品川三三
 神川更之濱場北之有江戸前八深川佃島金杉芝町西八品
 川三三相州室三水浦御番所更東八上總下總四房州入會
 外房州尾州三河和泉統伊右因之濱師共濱業致來候右
 三通関東之海八和泉統伊之濱師入會候内右三唯候得八

系
 系
 系

双方共漢場冲手氏之儀彼是被謂間敷事候間以來陸地
 御領主御領分境之有之御之岩之海上之示之双方之漢場
 境之相立訓詁方伊津浦之右境より東、揖保川中央筋又
 方南北之方、京授石より冲手八丁之内、磯漢場心得
 可申相手方至津、御之岩筋ノ境より西、君嶋迄南北
 示、字長濱同藤振之間、南へ出張有之山裾之地先より
 冲手八丁迄之内先地唐荷島中之唐荷島冲之唐荷島三
 丁所ノ其島ノ廻り冲ノ八丁君島、赤穂郡相除候ハ、右
 一准右下敷之内、至津磯漢場心得可申其餘冲手ノ至候
 示、双方共入會漢業可致右八丁之磯漢場之内、連七差交
 無之節入會候事ハ、互ニ相對次第致之向後双方共相嗜事
 論無之候様可申合候
 右佛裁許之趣、飛交無違法可相守候被仰渡、双方共奉畏候

為後日仍之加件

訓詁方

京極能登守殿領分
 播只揖西郡荻屋村ヨリ
 漢方支配請罷在候同及
 同郡伊津浦漢師惣代

源四郎

孫兵衛

相手方

酒井雅樂頭殿領分
 同及同郡至津漢師惣代

甚九郎

孫右工門

寛政十戌年十一月

右御戴奇之趣私共一同奉兼知候以上

長兵 四

伊 津 村

年寄 五 三兵 八

庄 八

庄屋 九 兵 五

新 屋 村

船 庄 屋 孫 七

年寄 六 右 五 門

病氣三冊外 傳 六

大 庄 屋 村 尾 孫 九 郎

室 津

十 郎

大 年 寄 吉 田 彦 左 門

御奉行所

兵庫縣漢業慣行錄參考書卷之十一終

兵庫縣漁業慣行錄參考書

鹹水漁業
之部

卷之十二

1
8
1

兵庫縣漁業慣行録参考書卷之十二 鹹水漁業之部

播磨國赤穂郡

第一節 坂越村尾崎村磯場争論之事

魚澳細代御願

一當区内坂越浦細代之儀二付全浦保長并二其助心得候
 者御召出二付則保長伍長并二漁夫共一人召連罷出候
 度此度第九小區尾崎村ヨリ右細代二テ常年ヨリ漁業
 致度候願出候二付全村被免免候テ不苦哉ト御尋二
 付元来坂越浦之儀ハ細代賣買之上傳來ノ義ニ御座候
 得者従前之通営業可致様被爲申付一統難有奉載罷在
 候然レ屬尾崎村役人始メ今以テ得心致魚候趣ニ御座
 候右ニ付今般坂越浦漁夫共賣買傳來之確証書類并二
 候方瀬中磯御座候折節此度ニテ傳廻船難破船仕

候事天御座候了其節當御支配仕則右事件之確証書類
 卜毛奉入脚覽尤毛尾崎村之儀ハ往昔ヨリ塩濱縁上荷
 船等ノ之ニテ渡世仕渡業ハ一切仕来候村方ニテハ奥
 御座坂越浦ニ於テハ海岸附ノ場所往古ヨリ專渡業ハ
 稼ヲ專一ニ渡世仕来候儀ニ御座候得者今更改業ニ得
 不仕右營業不仕候テハ断然父母妻子之養育難取統心
 至飢渴ニ迫リ可申候ニ付在恐不得止事再度奉歎願候
 何卒出格之御仁候ヲ以テ従前之通永々渡業出末候様
 被申付被下候得者御仁慈可奉感戴候以上

明治七年戊辰四月廿四日

第拾四ヶ區第六ヶ區坂越浦
 伍長 栢島 政之助
 保長 天西 源六

前書之通相違無御座候以上

詰副戸長
 竹田 甚吉

飾磨縣參事森岡昌純殿

願之趣實地検査之上何分之御沙汰可有奈先以是迄通
 可相心得事

茅二野

爲取撫証

尾崎村磯場ニ付坂越村ノ約束ノ事

尾崎村海面魚獲場東ハ字瀬ノ上ヨリ西ハ字梅ノ木迄大
凡於八町南北凡八町内海昨八年太政官茅百凡於五号海
面ハ官有地ニシテ人民所有之權與之御布告ニ基キ今般
御説諭ヲ以テ兩村收議ノ上拜借奉願候儀之縁場所尤之
通

鯛細

東ハ瀬ノ上ヨリ三本岩マテ是ノ所ト定メ
西ハ梅ノ木ヨリ三本岩マテ是ノ所ト定メ
右ニテ所隔日縁

壺細

後ノ瀬堤梅ノ木マテ是ノ所ト定メ

抽、水白石三本岩又予 卷ヶ所
右二ヶ所隔年縁

前書之通縁場所抽裁相足、并ニ拝借料旧慣ニ因テ金四
田和義兩村ヨリ半額ノ、年々奥相違官納可仕肯一同承
伏御請申上更ニ親睦之及契約ニ便上、向後御北分之儀
申間敷候為後證取換一札依テ如件

第拾四區第三小區尾崎村

一 茅戸長

笠岡 郷 治

一 茅戸長

尾上 東 招

一 茅戸長

招木 吉次郎

一 茅戸長

田 潤 新四郎

一 茅戸長

竹内 新 六

同大區同十區坂越村

戸長室井 三八殿

全 大西源 六殿

全 室井源 仙殿

全 岩崎 甚平殿

第三號 坂越村 尾崎村 渡業 爭論 二付 裁判 之事

飯田殿

稟訴 復

赤穂郡坂越村 成尾 大沼 郎外 二

百 部 於 二 名 惣 代 全 村 平 民

尾 上 清 八

渡業 妨害

二五五五号

岩村 清九 工 門

飾 東 郡 養 野 町 是 下 百 四 十 八

手 氏 長 尾 正 一

赤穂 郡 尾 崎 村 平 民 四 百 廿 八

今 井 昭 助

明治 十三年 四月 十七日

四月廿日

原告人

尾上清八
岩村清大衛門
長尾正一

被告人

今井治助

原告村ニ於テハ本年三本岩袖ノ水白石ノ三所ニテ坪細
ヲ以テ相縁ナ可申知被告村ヨリ坪細差入有之所ヨ以テ
右ハ被告今井治助ニ於テモ直ニ引返ル事承諾シ然ルニ
原告村ノ丸山ヨリ鎌寄見通内外ノイナ生候節埋取ノ
間被告尾崎村ヨリ一切立入不申右日限相過候得者鰯細
ヲ除テ外ハ被告村ヨリモ立入又ハ尾崎村地先ハ別段ノ

ス 約定ヲ為シタル外ニ原告ヨリ總テ立入被告共相縁ヲ約

四月二十日

茅四

尾崎村地先渡業三付願之事
地先渡業願

當村地先渡業堪三付願明強七年六月申實地御檢査
上上櫻井中屬殿陸瀬権中屬御出張三相成候御呼出
三行御尋問三付別紙通候始末差出レ種々奉歎願候得
共其石河等之御指合ニ與御座候折柄兼テ申上候通リ金
主日願益智候有之實以心至難淡仕候間何卒地先稼相成
候様此段御間濟被成下度奉願候以上
明治八年四月十八日

第拾四大區茅北小區尾崎村

千三於七番屋敷住

雜業 今井 治 助

戸長 松本 吉次郎

兵部

前書之通相遺重御在候以上

右區

副區長久保 治郎

區 長竹 内 身

飾磨縣權參事因崎真鶴殿

書面尾崎磯地先、明治五年八月相違候通、尾崎村根場、
可相心得、大正村、漁業人、元少、坂越村、従来、縁来、候、場、
附、二、有、之、傍、一、時、其、業、三、離、上、難、決、之、者、出、来、也、丁、几、様、双、
方、適、宜、不、誤、之、遂、之、入、會、稼、ハ、可、為、晴、手、事、

明治八年六月八日

飾磨縣權令森岡昌純

系

第五節

尾崎村漁場取越村ノ實渡之事

漁場實渡定約書

當村地先早孔山ヨリ以西漁業場從來其村ヨリ稼束俚所
 壬申八月中磯ハ地先縁之御達ニ有之先般右場所當村地
 先ニ御懸廢ヨリ御指令ニ相成尤ニ其村從來縁束之場所
 且漁業多數ノ産ヲ以テ一時難渡之者不此束様示許可致
 之御文面ニ付今般區務扱所ヨリ御詮論之上早瀬ノ上一
 ヲ所字深山路ヨリ白石迄一ノ所右ニノ所共隔日縁ニ示
 該般候段相達與御産執ヲ入定約申異論故障等申間敷候
 尤ニ此定約書當村漁業之増減ヲ斟酌ニ年未毎ニ爲取換
 可申候依テ漁業場實渡定約書如件

明治八年十一月

第拾四大區第三小區尾崎村

野茅戸長

尾上東招

全

鈴木三四郎

吉茅戸長

招水吉次郎

全

田測垣奇

全

田測新四郎

全

竹内執六

全大區全小區坂越村

吉茅戸長

岩崎甚平殿

室井源仙殿

大西源六殿

室井三八殿

茅六號

坂越村、小漢場、二竹尾崎村、釣末ノ事

寫取換證

本文ハ参考書茅二號ニ全シ

明治九年四月十九日

茅於四大區茅三小區坂越村

戸長

室井三八

大西源六

室井源仙

岩崎甚平

全大區全小區尾崎村

戸長

笹	尾	柘	田	竹
圃	崎	本	淵	内
御	東	吉	新	新
沼	柘	次	四	六
殿	殿	郎	郎	殿

兵庫縣漁業慣行録參考書卷之十二終

兵庫縣漁業慣行錄參考書

誠水漁業
之部
卷之十三

兵庫縣漁業慣行録参考書卷之十三 鮎水漁業之部

沅路國津名郡

第壹號 敵網禁令、觸達ノ事

文政八年十一月日藩郡代奉行ヨリ敵網禁

止ノ公達

急々申觸覽

御國中浦々敵キ網ノ義ハ工子網ト号ス右漁業ノ義ハ岩屋浦ニ相限リ外浦々往昔ヨリ急度停止ニ被仰付有之候ニ付右之趣度々申觸候義ニ候近近年右網名目ヲ替ヘ專ラガ子網全漁業候浦々有之趣相聞甚以テ不埒ノ事ニ候余右細遺屹ト指止可申候可一右様申付候凡不心得ノ者有之全細遺候ニ於テハ本人ハ勿論其地役人共臣モ網敷谷申付義ニ候余此段不相洩様漁師共ハ申付漁業仕間敷

旨、請書印形致サ七来ハ廿五日迄ニ可指出候此廻状急
之刻付夕以テ相廻シ濟ルヨリ可差返候以上

金 丸 共 助

棚 橋 源 次 郎

佐 藤 兵 治

位 田 恒 藏

由良浦 炬口浦 塩尾浦 志筑浦 生穂浦

佐野浦 釜口浦 下田浦 飯屋浦

右浦々庄屋方也

第貳號 由良浦漢業運上銀ノ事

カ恐奉願上仰訴訟ノ事

由 良 浦

一銀四貫五百目 由良浦分海有口運上銀壹

一同 百目 天保十二七年相増候分

一同 五拾目 去ル辰年御鑑ニ付相増分

一同 六百貳拾貳分 全浦薪御運上銀壹々年分

右ハ由良浦有薪御運上銀當々年分爲御救也請ニ被仰付

難有御請相濟申候依之カ恐奉願上候ハ未未年分先御請

銀目、通爲御救所請ニ被仰付被爲下度奉願上候重々御

慈悲ヲ以テ右奉願上候通被爲遂聞召被下候ハ、難有仕

合ニ奉存候右、段宜敷被仰上可被下候以上

由良浦

庄屋 中村門右衛門

田左太夫

年寄 龜之助

五人組 忠左門

次良吉

仙太郎

傳五郎

利助

津名御郡代様御手代

高田勇左門殿

近藤龜三郎殿

岩田官平殿

高田為左門殿

第三號

由良浦澳稅取定ノ事

第拾貳大區二小區

戶長

其區内鰯歛及鰯鮫澳五步一稅、義ハ兼テ澳民共苦情ニ有之趣ニ付昨明治七年分ヨリ左書、通改正更ニ年請ヲ以テ稅納申付候條此段可相心得因テハ昨七年二月以來右五步一稅既ニ上納相成居候内ヨリ定稅、金高引去リ殘、分、可下渡ニ付早々受取方可申出此段相違候也但本文改正、稅額今年々無相違上納可致旨卜前總代、若ヨリ請書可差出事

明治八年 名東縣 洲本支廳

第拾貳大區二小區、内由良浦

鰯鮫稅

一金四円五銭

志々年分

鰯鮫税

一金即円九拾四銭

以上

第四號

由良浦章魚壺及スマル漢場ト漢期申合

ノ事

約定書

一スマル花蜻ガリ漢堂ノ義浦宛リヲ以テ先年ヨリ互ニ
 不致約定ニ有之也南町繩船仲間ヨリ細屋町繩船仲間
 ヲ以テ今般スマル漢業ノ義ヶ死ヲ限リ營業致候様四
 ケ町へ頼出候ニ付四ヶ町惣代申談ノ上高亦南町惣代
 モ立會ニテ左ノ通

一スマル漢業ノ義ハ旧曆十二月一日ヨリ翌一月三十日
 迄ニケ月間

但テハ ヲコシセ 下夕原 エヤジロ

右四ヶ町禁止其他ハ差向無之事

一蜻ガリ漢業ノ義ハ旧曆六月一日ヨリ同七月三十日迄

二月間

但荒神出エヨリ内手灘、前ハ小山出エヨリ内手ハ
禁止其他ハ差向無之事

右様決定致候段漢師一同ハ無洩申通ニ供ニ吟味致注意
万一不心得ノ者有之ニ於ハ五拾日間漢縁休業サセ船具
共戸長場ハ預ケ置可申事

右浦中伍長惣代連印約定書如件

明治十一年三月六日

浦惣代伍長拾九名連印

第五號

○由良浦章魚壺及スマル其他漢業ニ付申

合ノ事

明治十二年

一スマル荒蝸ガリ漢業云々昨明治十一年三月六日一同
帳議ノ上取究リ書付出来浦中惣代連署致ニ有之也亦
々今般前書両書及繩拵ハ漢業ノ云々共帳議ノ上左書
ノ通決議ニ相成昨年取究リノ義モ保存致置候事

一スマル漢場ハ義テハ漢營不苦候事

一スルハ漢營ハ義昨年取究リ成規モ有之候ハ此本年ニ

一限リ旧二月十日迄不苦候事

一蝸ガリ漢營ノ義ハ爾來荒神出エヨリ内手下モハハラ

ガガリヤ不ヨリ沖手ノ出石ノ鼻成山ハ出ル沖手不

苦候事

一 大繩船瀬採へ漢場ノ義下リ松ヨリ下手ニ限候事
一 秤繩船ノ義繩船札持買入候后ニテ無札ノ小繩船ハ買
候事

一 附磯ノ義ハ磯ノ口ヨリ下ニ致候事

一 但入費ハ下ノ釣一同ヨリ差出ス事

右様決定致候假漢師一同へ無渡申通シ供々吟味致注意
可一不心得ノ者有之相背候者有之ニ於テハ五拾日間漢
縁休業致サセ船具共戸長役場へ預ケ置可申事

右浦中伍長元漢師惣代連印約定書如件

一 明治十二年三月

浦伍長惣代拾九名連印

第六號 由良浦漢場内へ他村漢者侵入謝罪ノ事

○其一

私義本月本日心得違ニテ由良浦網代へ入込ゴ子網漢嘗
仕居申込公浦漢船見認メ戸長役場へ罷出候様申ニ付罷
出候事ニ御座候右心得違ハ重々迷惑仕候歸船ノ上
一同へ申談以來由良浦網代ニ於テ網漢業不仕様急度取
究メ書付差出可申候間此度ノ義ハ内海ニ御取討被下度
奉願候也

三原郡沼島浦

網代 龜 吉

明治十二年十一月四日

藤田新吉

由良浦戸長役場御中

○其二

一 札書

私共後本日不糸ヨリ由良浦漁場へ侵入ガ子網漁業仕候
 段重々奉恐入候此度ハ義ハ内泊被降候ニ付向後漁場
 二 於テゴ子網漁業致シ間敷候万一不心得ヨリ向後漁場
 三 於テゴ子網仕リ而見咎ラレハニ於テハ漁得ノ諸莫無
 論而浦工差出ニ其如何様而處分ニ相成候テモ毛頭申
 分無之候候一札書相渡申處如件

津名郡生穂村

弥平

明治十三年四月四日

由良浦船宿

中島梅吉

由良浦漁夫惣代而中

○其三

一 札書其二 全本筋ニ付略ス

津名郡佐野村漁夫

明治十三年四月四日

増田惣次郎

川添兼吉

増田鉄藏

鍋嶋福太郎

由良浦船宿

中嶋梅吉

由良浦漁夫惣代而中

○其四

一 札書其二全文断十九日以下略ス

津名郡北浦

明治十三年四月四日

惣 輪 米 吉

竹 田 惣 五 郎

川 西 久 藏

由良浦船宿

中 嶋 梅 吉

由良浦漢夫惣代御中

○其五

一 札書其二全文断十九日以下略ス

津名郡尾崎浦

明治十三年四月四日

上 田 八 藏

濱 岡 千 藏

平 井 五 良 吉

青 木 松 藏

由良浦船宿

中 嶋 梅 吉

由良浦漢夫惣代御中

○其六

一 札書其二全文断十九日以下略ス

明保十三年四月四日

津名郡室津浦

砂尻為吉

濱田金作

由良浦船宿

中嶋梅吉

由良浦漢文惣代御中

○其七

私事ハ津名郡主穂村北野孫作被雇人ニシテ全人廻持ノ
 漢船一艘ヲ預リ外ニ即人乗組今蝦籠伊田下津浦ハ漢事
 ニ罷越歸途本月廿三日三原郡沼島浦ヨリ老里半程東中
 合則チ地方全郡畑田村ヨリ七老里半程中合ニテ細ヲ卸

漢事罷在候ハ津名郡由良浦(野田床スクイ)ハ漢丈一艘
 六人乗り四隻参リ由良浦ノ細代ニ於テコチ細ヲ以テ漢
 業被致候テハ由良浦ノ漢丈ノ妨害ニ相成ル旨申候得共
 根元沼島浦ト生穂村トハ漢業ハ會ニ致シ居候事ニ付其
 段申述ル下虽比更ニ聞入不申細ヲ渡シ候様万一度不申
 候得ハ打キ殺ス下申ニ付先方ハ多人數ノ事ニテ叶ヒ不
 申罷在候処細及手水槌等ヲ奪取罷歸候私共事ハ右即拾
 四五名ノ若是迄見知不申者ニテ姓名等ハ相分不申候
 付本月廿四日付ヲ以テ奪取ラレ候品々而已御届仕置高
 其右搜索仕候処右四隻ノ乗組ノ内全浦平井文太郎ナ
 者槌ニ乗組居候段傳業仕候ニ付全人至急御召出ノ上御
 取調被成下候得ハ自然連類判然可仕事ニ御座候此比ハ
 鯛登リノ期節ニ有テハ器械奪取ラレ空敷休業罷在候テ

八実ニ私ニ於テハ重々迷惑被雇主孫作ハ對シ候テハ相
清不申候ニ付何卒至急前書文太即仰召出シ上仰取調
被成下度此段奉告訖候以上

沓路國津名郡生穂村北
野孫作被雇人全郡志筑
村平民

明徳十四年四月廿六日 東 五良吉

兵庫縣令森岡昌純殿

○其八

上願書仰却下願

私受津名郡生穂村北野孫作ニ被相雇コ子細ヲ以テ三原

郡沼島浦ハ桑越全浦一里半程東沖合ニテ漢事罷在候処
津名郡由良浦漢夫四艘ニテ漢業中ハ参リ由良浦細竹内
ニ於テガ子細漢業被致候テハ漢夫一同ノ妨ケニ相成候
ニ付細ヲ渡候様申度得共渡不申処右漢夫細ヲ持歸リ候
ニ付由良浦漢夫ハ係止今般奉告訖候処全浦漢夫惣代及
生穂村漢夫惣代并ニ私共本日仰召出上仰取調ニ相成
候処由良浦ハ取揚子罷歸リ居候細及手木槌等ハ私ハ差
度ニ候様申聞ニ相成候上由良浦沼島浦細竹内ノ邊
ハ私ノ心得違ニ有之全由良浦ノ細竹ニ有之候候テ疎漏
ノ上願仕候段重々奉恐入候候テハ向後ノ邊ハ津名郡役
所ヨリ御本縣ハコ子細ノ邊同ニ相成居候ニ付御本縣ヨ
リ御指合有之由ハコ子細ヲ以テ由良浦細竹内ハ決テ
漢事ニ参リ申聞敷且取揚テレ居候細及手木槌等ハ示談

上貫七請候若二付貫請可申候細代境界ノ事ハ全ク私心得違三有之候間今般ノ上願書ハ何卒御却下被成下度此段奉願候以上

陸路國津名郡生穂村平民北野孫作被雇入全郡志筑村平民

明治十四年四月廿七日 東 五良吉

兵庫縣令森岡昌純殿

第七號

由良浦ニ於テ他村ノコ子網漁若侵入ヲ防ク約束ノ事

約定書

第一條

一由良浦漁場内ニ於テ他村浦漁船侵入ガ子網營業スルヲ見認ル候ハ迅速漕寄右コ子網漁船ヲ漕帰リ候事

第二條

一コ子網漁船漕帰候ハ骨折トモテ幾人乗組ニテモ金

第三條

一敬艘居合コ子網見認ル候節ハ一同示談ヲ遂ケ敬艘漕

寄候ヲ漕帰前候比骨折料ヲ義ハ惣仲間ハ前條之通

第四條

一、口手網侵入營業ヲ見認メ候テ見逃シ候者ハ違約金卜
 二、元金三円浦方ハ差出可申事
 三、第五條
 一、前條取極メテ約定ヲ犯シ候テ違約金差出シ不申者有
 之候ハ、該町伍長惣代ヨリ辨償可致事
 二、但本文伍長惣代ヨリ辨償候時ハ犯人出金致候迄ハ
 知持、船具伍長惣代ハ預メ置可申事
 右之條々浦中伍長惣代一同集會申談、上ノ前ハ無淺通
 知致シ相極置約定書如件

明治十五年三月十六日

由良浦伍長

熊野次良吉

外拾九名

全 浦組惣代

今 出辰藏

外拾九名

第八號



由良浦澳場へ仮屋浦澳者ニ入澳ヲ許セ

ニ約束ノ事

約定書

一 唐トツキト出云ヨリ小蛸出ニ由

右ハ今般由良浦澳場ニ於テ澳業致サセ吳候様御依頼ニ
及候処先當十五年十一月ヨリ永十六年四月迄ノ処右々
処ニ於テ澳當致候義御承諾被成下然ル上ハ仮屋浦澳船
ニ限リ澳船ハ姓名記入ニ及役場印ヲ押タレ板鑑札ヲ渡
シ置可申右板鑑札持參無船ハ決ニテ仮屋船ニ無之候且
亦其内金トシテ左書ノ通差出ニ候后日違乱無之為一札
如件

津名郡仮屋浦

明治十五年十一月

植野六郎

全郡全浦漢師惣代
岡野音吉

津名郡由良浦漢師惣代

熊野次良吉殿

花野四良吉殿

宮川円吉殿

長尾竹吉殿

今出辰藏殿

第九號 ○其一 由良浦及洲本卜漢場筆論裁判ノ事

第九號 第一 裁判言渡書

兵庫縣次路國津名郡

洲本漢師町漢夫惣代

原吉 濱田虎藏

全 鯛 九平次

全 新居壽一

全 中野菊松

全 船場町漢夫惣代

全 民谷四良吉

全 津田政吉

全 津田政吉

全縣全國全郡由良浦

漢夫惣代兼全浦平民

被告 廣瀬善次郎

全浦士族

全 秋山警門

網代經界ト題スル詞訟審閱スル如本件ハ網代、經界ヲ
爭論スル要領ナルモ未ク其管轄廳ノ詮議中ニ在テ原被
両造共ニ明治八年第百九拾五号公布ノ手續ヲ經ス各海
面ヲ區画シ借用シタルモノト非サレハ後テ兩造ハ網代
ノ經界ト稱知ベキモノ素ヨリ未確定ノモノニ付本訴ハ
司法裁判ニ屬セサルモノトス仍テ訴答書共却下スルモ
ノナリ訴訟入費各自辨タルベシ

明治十八年二月五日

神戸地審裁判所

洲本支廳

○其二

明治十八年第百四拾四號

裁判言渡書

證訴人兵庫縣沓路國津名
郡洲本漢師町漢夫惣代兼
全所全町漢夫惣代鞆九平
次外郎名代人全町全所百
七拾番地平民

濱田虎藏

前全新全火全町百六拾八
番地土族

新居壽一

前全新全火全町五拾八番
地平民

松本延藏

全火船場町漢夫惣代兼漢

師町漢夫惣代鯛九平次外

前名代人洲本船場町百八

拾番地平民

津田政吉

被控訴人全縣全國全郡由

良浦漢夫惣代熊野次良吉

外拾八名代兼全浦四百九

拾五番地平民

廣瀬善次郎

前全浦漢夫惣代熊野次良

吉外拾八名代人全浦百七

拾五番士族

杉山譽門

右洲本漢師町船場町漢夫ヨリ由良浦漢夫ニ係ル網経界

ノ訴ニ付神戶始審裁判所洲本支廳力言渡ニ又ル裁判ニ

服セ又ニ漢師町船場町漢夫惣代ヨリ控訴ヲ為シ又ル

請依リ又ハ審理ニ双方ハ陳述ヲ聽ク

控訴人陳述ハ要領ハ却モ控訴人專力網経界ハ往古ヨ

リ洲本川口ヨリ南方ハ松崎鶴ヶ峯見通ニ至ルモノナリ

系

二 近來被控訴人ハ如何ナルヤ動モスレハ控訴人
 カ自己ノ網代内ニテ捕魚スルヲ妨ケ洲本宮崎更ハ被控
 訴人ノ網代ナリト主張スルヲ以テ本訴ヲ提起シタル次
 第十ナリ然レニ始審廳ハ原告被告カ甲第ハ号証旧名東縣ノ
 達ニ依リ後前ノ通捕魚採藻スル特許ヲ得ル來今日更官
 業為ニ居ルニモ拘ラヌ明治八年第百九拾五号公布ヲ引
 用レ司法裁判ヲ下サレタルハ不當ナルニ付覆審ヲ求ム
 下云フニアリ
 被控訴人陳述ノ要旨ハ元來被控訴人等ノ網代經界ハ津
 名郡上灘村字畑田組ニ至リ北ハ洲本宮崎更ナルハ乙号
 証拠ニ依リ明白ナリ然レニ控訴人ハ不當ニモ被控訴人
 ノ網代内ニ侵入シ猥リニ鰯鮎ノ漁營ヲナスニ付之ヲ制
 止スルヨリ突然本訴ニ及ビ之ヲ其提供スル甲号証拠
 ハ總テ被控訴人ノ認メタルモノニ非ス其潮浦トノ契約
 書ニ對シテハ乙第六号斷書ヲ潮浦ヨリ徴シアル次第ニ
 テ控訴人カ主張スル經界ハ他村ニ於テ認メタル証拠不
 ラ存セズ只無替ハ陳述ニ止マレモナリ被控訴人等ハ
 始審ノ裁判ニ敬服ニ居ルモ對手人カ控訴ニ經界ヲ爭フ
 以上ハ被控訴人ニ於テ既得ノ權利ハ決ニテ讓ル了不能
 ルニ付更ニ至當ノ判決ヲ乞フ云フニアリ依テ各証拠
 ヲ審閱シ說明スル左ノ如キ

一 本案ハ明治八年太政官第百九拾五号布告發令ノ后明
 治九年一月旧名東縣第拾四号達甲號ハアリテ之ニ準
 據シ兩造ハ後前ノ通小海上ニ於テ捕魚採藻ノ業ヲ營
 一 行來リタル如明治十七年ニ至リ其網代即チ旧來ノ各
 自漁場區域ニ付爭論ヲ生シタル者ナレハ其之ヲ裁定

スルハ固ヨリ普通民事裁判ノ管轄ナリトス
 一 兩造カ其細代ノ証トシテ提出スル甲乙号ハ悉ク自己
 隨意ニ調成ニテ管廳ハ差出ニタル固面又ハ書類或ハ
 他ノ村浦又ハ一個人トノ契約書類ノモトニテ對手人
 二 於テ認メタルモノ又ハ既ニ官廳ノ公認ヲ經タル者
 三 連ハ一モ存スルナク其効力ニ於ルモ甲乙号共ニ均
 一ニモテ更ニ差尋アルヲ見サレハ之ヲ以テ論定ハ一
 方ノ獨占漁場ナリトノ証ト爲スニ足ラサルモノトス
 一 前項ノ如ク論定獨占ノ確証ナキノミナラヌ潮浦カ申
 三 對ニテハ論所ヲ甲乙ノ細代トシテ甲號乙ニ對ニテハマ
 外論所ヲ乙ノ細代内トシテ四號三漁業ニ関スル契約
 ヲ結ビタル事實及論定ニ於テ控訴人カ聯宛漁業ヲ十
 スル點計ニ居タルトノ被控訴人ノ自供及被控訴人ハ

甲第号証、如ク有口税三拾余円ヲ納メ未リタルニ若
 三 洲本宮崎以南ヲ被控訴人獨占細代ナリトセハ控訴
 人ハ漁業ヲ營ノ地ヲ有セサルニ至ルノ事實等ニ依レ
 ハ論定ハ全ク兩造入會ノ漁場ナリト認定セサルヲ得
 ス
 右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ
 明治十八年二月五日神戸始審裁判所洲本支廳カ言渡
 タル裁判ハ其當ヲ得サルニ付之ヲ取消ス依テ論定洲
 本宮崎ヨリ松崎鶴ヶ峰見通ニ至海面ハ従前兩造入會
 漁業ノ場知ナリト心得ベシ
 但訟費ハ始終審共各自弁タルベシ
 明治十八年十月十日大坂控訴裁判所公庭ニ於テ終審
 ノ裁判ヲ言渡ス者ナリ

大坂控訴裁判所

判事 十時 三郎

判事 松村 秀実

書記 宮地 直親

第拾號 潮浦塩田浦漢場争論裁判ノ事

裁判書

兵庫縣汰路國津名郡潮浦

平民漢業人惣代中野己代

造濱口栄吉西村友三郎山

下春造濱端彌助西岡八代

吉右六名代兼五村平民

原告 西岡利三郎

外一名

兵庫縣汰路國津名郡塩田

浦平民漢業人惣代五村平

民

被告 田村猪一郎

系

澳場境界訟立ノ控訴遂覆審辨明元終審ノ判決ヲ為ス左
ノ如シ

辨明

第一條原告ニ於テ本訴ノ起因タルヤ文政三年旧郡代役
所ハ澳場爭論出訴之此裁判ニ添フベキ書類ハ現今所在
不分明ニ付添付ノ事能ハズ未甲第壹号証ノ如ク判決ヲ
受テ境界ヲ確定ニ被告浦之澳地ハ該判文明記之如ク原
告提供セル繪圖面記載ノ通り立花崎ヨリナレテノアノ丁
間九丁ニ至テ則チ塩田里村走り下リニ有テ岩石ハ黒
岩ニ相當スルヲ以テ之レヲ限リト其區域ヲ確定セルヨ
リ明治十六年一月ニ至ル迄數十人ノ久ビキ一ツノ故障
ナリ初メ之ニ全目該境界内ニ侵入セ捕澳ヲナスヨリ不得
止其筋ノ詭論ヲ乞フタレニ服セテ被告村カ原告ト
ナリ起訴セリ然レモ原告提出ノ繪圖面ハ縣廳ニ差出シ
各自澳場ハ沿定ニテハノミナラズ甲第二号証第一三条
ニ就テ視ルモ論議ハ原告ノ澳場ナルヤ顯然ナリ該証ノ
如キハ天政年度旧郡代所ノ境界ヲ判定セルヨリ以降ノ
習慣等實地ニヨリ而村戸長ノ保証ニタレモナリ被告
方ノ論及ハ繪圖面之内字渡岩ヲ以テ區域ナリト種ニ第
二号証之繪圖面ヲ製造シ主張スレモ甲第一号証及ヒ第
一號証ニ渡リ岩ヲ以テ區域ナリト明文アラス又該証ノ
末項ニ(圖)元禄年中ハ繪圖面ニ走り下リヨリ立花崎ナレ
テアノ九丁等在之右走り下リトハ塩田里村走り下リ
テ相當云々(下)ト明記アリテ現ニ立花崎ヨリ九丁ニ相當
ル各嶽黒岩ナリト明瞭ナルニ始審廳ニ於テハ其九丁ヲ起

訴スルニ由ル

過スル五六丁外ニ有テ蓋田里村支リ下リニモナキ渡岩
 ヲ以テ境界ナリト云テモ第二号証ニ固着セシ裁判ヲ下
 ナレタルハ不當ナリ又甲乙第一号証ニ(騎)相任立指出候
 云々ト云ヒ繪圖面ヲ製造シ之レヲ根拠トスレバ該繪圖
 面ハ丙第一号証ノ文字ト字体筆意モ同一ナラズニテ目
 下調整セモ丁明ラカナリ該証印影ノ如キモ旧郡代役所
 ノ印影トハ認メカケテハ信ヲ置キタシト聞陳セリ依
 テ事實ト証狀書類ニ付テシテ審案スルニ原告ハ甲第一
 号証ヲ以テ論地ノ境界外ニヤ原告繪圖面立花等ヨリナ
 好ノアテ下聞九丁ニシテ蓋田里村支リ下リ岩則黒岩ニ
 相當スルヲ以テ其區域判然タリトモ被告ニ於テハ論所
 之區域ハ繪圖面中字渡リ岩之際ナリ岩ヲ黒岩ト唱ヒ該
 所則渡岩ナリテ境界外ナリ又蓋田里村支リ下リハ該圖味

線ハ道路ニシテ渾然テ名称ニ来ルル旨論年スルニ付例
 本夫廳ノ实地見取繪圖面且間敷等夫量等取調方ヲ囑托
 本心ニ該圖面ニ由ルル黒岩ノ名称ハ分明ナリ且蓋田里
 村支リ下リト言フ所西道ノ末線ニ跨リ何レヲ指明セシ
 ヤ又明確ナラシムルニ由テト虽抑モ原告カ兼認ス
 ル所至甲乙第一号証未項ニ(騎)相任立指出候繪圖面境目
 之所ニ透付紙置候云々(騎)明記シアリテ當時該繪圖面又
 心ニ原被告ニ對シ甲乙第一号証ニ密着シ付共ナリシ丁
 ハ明ラナリ然レニ原告ハ其繪圖面ヲ提出スル能ハズニ
 テ蓋シ甲乙第一号証ノ云々ニ固着シ論所境界ハ判然タリ
 本主張スルハ其當ヲ得ナリモノナリ然而モ原告ハ被
 告カ呈出スル繪圖面及該証ノ印影等ニ於ケルモ目下為造
 ルモノナリトハ信ヲ置キカケテト主張スルモ果シテ作為

七シトナレハ之レカ証左ヲ舉ヤガレ可ラガレ而已ナラ
 不甲第一号証ニ密着スル所ノ本訴必要ナル該圖面ヲ呈
 出セザル限ハ被告方圖面ハ當サズ乙第一号証ニ付屬セ
 小真正ノモノナリト看認又サレハカラ不夫レ然リ然ラ
 小則該該面ニ付屬スル所ノ渡リ若被告カ黒石ト唱へル
 際ヲ以テ論所之境界ナリト断定セガレヲ得ズ
 第二條原告ハ甲乙第一号証ノ内丁間九丁云々ヲ以テ境
 界確定スル云々主張スルト前条衆明ノ次第ナレハ該今
 境界内多サノ間敷ニ伸縮ヲ生スルアルモ之レヲ以テ
 甲第二号証ハ繪圖面ヲ動ス丁ヲ得サレモノナリ將甲第
 二号証ノ第一二項ニ就テ視ルモ原告カ指的セル境界黒
 岩ナレト判然タリト虽此該証ハ原告ト他浦則洲瓜浦等
 本訴爲テテ殊ニ本訴論議中明治十六年五月村ノモノ
 之テ被告ヲ曾テ承認セガレモノナレハ之レヲ以テ被告
 ハ影響ヲ及ボスベキ効力ナキモノナレハ其申状ハ採用
 シカタク
 判決

前條ノ理由ナルヲ以テ原告訴願不相立到底棄裁判ノ通
 リト可相心得事
 但訴証入費ハ成規ニ照シ原告ノ負擔タルベシ
 大坂控訴裁判所

明治十六年九月十八日

判事 後 藤廣貞
 香川景信
 長安道一

第拾卷

志筑浦鹽田浦漢場章論落着ノ事

覺

一其方共下同郡鹽尾浦庄屋平右工門同五人組七郎大夫
 甚兵工卜取結網代獵場境出入遂吟味候如其方共理運
 二聞届候津名郡鹽浦之内地方ハ出口沖合ハ之方角ハ
 卯辰之間地方ハ酉戌之間ハ相究候自是上分志筑浦ハ
 獵場ハ相定候条可得其意候御横目牛田又右工門淺野
 安兵工致一庶依是証文遺ノ者也

元禄七年戊ノ十一月五日

今田金兵衛 稻田彦兵衛

志筑浦庄屋

源兵衛

孫三郎

かたへ

第拾貳號

志筑浦漢場ノ鹽田浦ヨリ來漢ノ付証書ノ事

一札

一志筑浦鹽尾浦漢場境目之義ハ元祿七年御裁許様之而
 浦成下被為仰付相付居申死去几成年正月網付ニテ
 色莫相見申節右場所之義ハ當浦漢場之様々一統相心
 得其段申立候得共其御浦ヨリモ先年之御運被仰上此
 度右ニ件御成下被為仰付其御浦ヨリ被仰上候通下被
 仰出右様先年御裁許様ニテ御成下被為仰付候其御場
 地ハ相對不都合之義申掛候ニ付而ハ此度其御浦ハ斷
 申様被為仰付奉畏御人共一統是迄不心得ヲ以彼是申
 立候候迄急至極仕候隨テ浦中為惣代庄屋五人共ヲ以
 御新申述候死重ニ隣浦之親ヲ以テ御心得被下候上

而裁許樣師判物花今度師成下被仰出候而趣意、知永
 久當浦人共職心得遺無之樣相究可申方、由被仰聞系
 知仕猶又此度仰斷、參候事、別心無而座候故則究書
 仕相渡申候
 一當浦掛引網之等、近年地方、引揚居申候得共根元右網
 遺之等先年第一章論之基、相成奉掛仰而煩趣、時申
 聞被成自今以後右網遺之等、仰指留被成旨系知仕候
 附西浦境目、工手、本文之通地方、細引揚不
 申事、而座候故重之難決仕等、候得共後年、至讓
 合、以細遺之等相調申道、相運候、學師了簡
 被下度事

一當浦手録細立細釣心、里右四呂漁業之等、隣浦之親
 又、強、而指留者、被下候由、其而浦漁師中漁業之

節細也、尋、相成相障申節、當浦漁師共指扣申事、

兼、相心得居申候自、無、心得之者有之候、浦人共

一統、行着可申候事

一其而浦漁場、内、色、莫、相見申節被仰聞、吹、第、其、也、

一、外、漁、事、指、扣、居、申、仰、作、法、之、兼、相、心得、居、申、候、得

一若、以、来、義、厚、相、守、可、申、事

右、此、度、細、付、一、件、仰、成、下、被、為、仰、付、當、浦、人、共、是、近、之、如、非

分、之、趣、意、以、仰、斷、申、速、猶、又、一、統、申、談、得、心、之、上、永、久、而、浦

相、親、申、度、奉、存、後、之、年、至、不、心、得、之、者、為、之、書、付、仕、相、渡、申

如、如、件

文政元寅年十二月廿三日

鹽尾浦人中

志筑仰浦人中

右之通当浦人共一統得心之上相究申候外相違無申座候
此以上以後浦人共不心得之等無之様爲之相究置可申
候以上

鹽尾浦庄屋

平右衛門

全浦五人組

藤兵衛

外郎名

第拾三號

釜口村及屋浦、内下田組、下漢場事論

落着ノ事

仕上濟事申請書之事

佐野釜口村境いたづ川ヨリ釜口村下田境にこれ

中川迄之間下田釜口西浦論細代之事

一 齋敷漢事ノ外諸漢業之等是迄仕来之通向右西浦入相

下仕若元ニ他浦ヨリ入込来候諸漢船之内銀釜口村ヨ

リ下浦入込ヨリ入込候分釜口浦ノ可受取下田ヨリ上浦

ニヨリ入込候分若下田浦ノ可受取事

一 齋敷漢事ノ事釜口村月山南手並松見通ニ全村五四郎

谷川ノ限リ西村細代境ノ相定右川ヨリ上之当浦下田

浦全知ヨリ下ニ釜口浦細遺仕来ル丑年ヨリ右細代隔
年西浦打遺ノ細遺可仕事

但每年七月朔日ヨリ細代打替ニ相成候者
一 齋歟申運上銀之奉浦ヨリ所受ニ奉願浦切上納可
仕事

一 銀九郎布目 当月二十日切釜口村ヨリ
但天保五年ヨリ此節迄九細代ニテ齋歟漢事仕候

配当銀申取纏ヲ以テ右ニ通受取候仕指引無出入為

相済可申事

右ハ下田浦釜口村論細代致年未度々引纏ニ相片着不申

猶又此度釜口浦ニ細代仕争論ニ相成候處申取調之上浦

人共種之申理解被仰論前顯之通申取纏被下兩浦人共一

統得心之上申請仕莫真正申座候也上ハ向後互ニ睦敷

相サニ莫論仕間敷候仍テ為後日消事申取書指上申處如

件

釜口村漢師惣代

三 吉

外郎名

下田浦漢師惣代

久左工門

外五名

釜口村五人組

伊 助

外走名

全 浦年寄

作右工門

左 浦庄屋

宮崎富左工門

下田浦五人組

九左工門

外郎名

今 浦庄屋

山添喜右工門

白山村廻頭庄屋

山井次郎左工門殿

佐野村廻頭庄屋

蔭 山寛吾殿

第拾四號

覺

佐野村卜生穂村卜入會漢業約束ノ事

一其市浦細代之夢中之内村卜其市浦境穢多川限上手ハ
 其市浦細代下手ハ当浦細代ニテ往古之夢ハ不存矣得
 共中古ヨリ餘内銀受取漢事為仕市座候處此度双方ヨ
 リ彼是申幕当浦ヨリ市上様ハ市許訟申上候處市上様
 ヲリ双方互ニ入込不申様ニ卜被仰付置候上此度由良
 浦庄屋門左工門殿ハ市嘯被仰付門左工門殿ヨリ双方
 ハ市理解被下双方得心之上後々年ニ至度吳論等無之
 取替申一札左之通

一札之事

一其市浦当浦細代互ニ入相漢事仕ニ付テハ其市浦ニ漢
 船多有之者浦ニハ漢船無敬事故一ノ年ニ漢事之有無

一 不拘銀札八十日宛每年六月晦日限相渡晦日西度之
 四十日宛當浦一而渡可被成候尚又當浦三日其脚浦細
 代八八以漢事仕之於三八一今年二十日宛夏冬西度
 二 相渡可申候九頓蓋了多申受八手操繩船之障、相成
 申事故且之申談双方漢事之障、相成不申樣讓合讀申
 事
 一 脚互二細代色與相見一候節八立寄申間敷候无其節他
 廣細入以候于七五二指支申間敷候万一不心得之者有
 之候心、漢職指留可申事地盤地廣之大地引細入以候
 事六相互二仕間敷候双方浦内之地引細如何程出来仕
 候于七五二指支無之事
 右之通浦中一統宛書脚渡申上候後日、吳論無脚座
 候仍于建判如件

生穂浦中惣代

喜兵衛

文政元寅年十二月十三日

外四名

佐野浦中脚惣代

沼三郎殿

外四名宛

右之通当浦人共宛書脚渡申上候後日、吳論無脚座候保
 于建判與書如件

生穂浦庄屋

寅藏

全浦身寄

德兵衛

全 浦五人組

源 助
藏

佐野浦御庄屋

四 郎 次郎殿

全 浦年寄

辨 助殿

全 浦五人共

太 右工門殿

外四名宛

右又通一座ニテ致儀知候以上

由良浦庄屋

門左工門

六 系

第拾五號 釜口村依野村漢場二村申合ノ事

為取換申條約書

一 依野村ノ内元依野浦釜口村ノ内元釜口浦諸漢場之等
ハ隣村ナリヲ以テ先年未度々約定取結相互ニ漢事致
未候如何分指支之慮有之互ニ不便利ニ付彼是申繼居
申裏此度依屋浦吉野清藏殿并筒勝太郎殿取噴ヲ以テ
先年之約定取消双方示談之上更ニ以右左之通相定候
事

第壹條

一 元釜口村依野村漢場塚界之勢ハ兩村塚字塚谷川中真
ヲ以テ塚界ト相定候事

第貳條

一 依野村漢業者ニ以テ元釜口浦ハ入心候節ハ元釜口浦

漢業者ノ障害ナキ様釜口村漢業者ニシテ依野村ハ入
以候節ハ依野村漢業者ノ障害ナキ様互ニ讓合漢業致
候事

第三條

一 元釜口村鯖建細之第一日ニ迄帖宛依野村ハ入以依野
村鯖建漢業者ト同ク順番ノ圍ヲ曳左之箇所ニテ漢業
致候事

一 番田民 貳 番中磯 三 番森鼻 四 番青石

五 番六部 六 番木摺出 七 番三本松 八 番摺出

九 番朴木

但九番ニ至レハ是番ニ立戻リ順次漢事致候事

第四條

一 釜口村ハ鯖建細之圍ハ依野村鯖建細ノ間ニシテ依野

村漢業障害ナキ様漢事致候事

第五條

一 依野村漢業者釜口村ハ入以漢業致候ニ就テハ是々年
分典内トシテ釜口五ヶ年宛年々依野村ヨリ釜口村ハ指
出可申釜口村漢業依野村ハ入以漢業致候ニ就テハ是
々年分典内トシテ釜口拾五ヶ年宛年々釜口村ヨリ依野村
ハ指出可申候事

右之通條約致候處確實ニ候也

依路因津名郡釜口村漢
業者惣代

明治十九年七月七日

川 西 三 吉
原 忠 吉

全国全郡依野村漢業惣

仲

仲野豊次郎

立花悦哉

証人全郡及屋浦

吉野清藏

井筒勝太郎

前書換場約定之趣聞並候事

津名郡及屋浦外二ヶ村

戸長

田邊永三郎

全郡佐野村戸長

生村計吉

第拾六號

岩屋浦船泊海廻船勝手渡業差許ノ事

津州岩屋船五拾七艘之事

此方分國中灘目廻船往來後不可有別候猶淺野旅兵衛可申候也

筑前守判

天正九年十月三日

共一左工門

右之通御免許ノ御奉書頂戴仕居申ニ付宜仕指上申候以上

岩屋浦庄屋

更九月十日

宇右工門

細助

津名市郡代様御手代

池澤廣文丞殿

史藤善藏殿

小西徳太郎殿

惠来本次兵五殿

第拾七號

旧墓浦村裏村間字大石ヨリ上分ハ岩屋浦燗場ノ事

覽

一其方共同郡机浦庄屋三郎右工門同所年寄祓右工門九郎右工門上獵場塚之出入邊吟味候其方共理運ニ申届候津名郡墓浦村裏木村間ニ有之大石ヨリ上分岩屋浦ノ獵場ニ相極候条可得其意候御横目先山太兵五致一坐依之証文遺者也
寛文拾貳年六月八日

鳴 角右工門

外郎名

岩屋浦庄屋

文四郎

全 所年寄

作太夫

外四名

かゝへ

第拾八節

播州明石郡前濱新濱ノ津名郡岩屋浦

人ト釣俣場幸論落着ノ事

一釣俣場之義前濱新濱之獵場東ハ明石旧川口堀切ヲ限
 西ハ古波門近ノ間岩屋浦人ト前濱新濱ノ浦人ト入
 合ニ釣俣仕候者右旧川口ヨリ大藏谷村之内狩口谷近
 而濱界ノ獵仕来候得共大藏谷ト入合之場ニテ候故岩
 屋浦人釣ニ参ル儀不罷成候者岩屋獵場東ハ鷄崎西ハ
 暮浦大石近ノ間前濱新濱ノ浦人ト岩屋浦人ト入合
 釣俣仕候者釣俣以外諸獵ノ儀ハ前々之通互ニ獵場ハ
 入越仕間敷候附細獵仕候節ハ釣船ヨリ細獵ニ障不申
 様旨用捨可仕候事

一岩屋浦ニ勝手有之候其他所ノ獵船ヲ招寄前濱新濱分
 二テ釣仕申間敷候浦中勝手有之候ハ岩屋分ニテ

一 何方ノ獵師ニテモ召寄釣獵仕セ候義若前濱新濱斗
 一 障申間敷候九前濱新濱ニ勝手有之候共他所ノ獵船
 招寄岩屋分ニテ釣仕セ申間敷候而濱勝手有之候ハ、
 何方ノ獵師ニテモ召寄前濱新濱分ニテ釣獵仕セ候義
 一 岩屋ヨリ障申間敷候事
 一 他浦之獵師双方ノ名ヲ借リ右獵場ハ紛入釣仕候時ハ
 吟味仕相改可申候事
 右之通噯ニテ相突双方得心仕候上若後々年ニ至迄違乱
 有間敷候仍双方連判之書付ニ噯入六人判形ヲ加取替置
 候如件

明石船町前濱年寄

鹽屋吉兵衛

全年寄

元禄三年庚午七月十九日

舟屋喜右工門

全所煎

十左工門

全新濱年寄

惣左工門

全年寄

長兵衛

決判岩屋浦庄屋

文四郎

左所庄屋

幾右工門

全年寄

太郎太夫

系

五年寄

七郎右工門

暖人沱州浦村庄屋

孫右工門

五及屋浦庄屋

六兵衛

全小田村庄屋

次郎太丈

全明石東本町

紙屋五郎兵卫

全東奥町

向屋庄右工門

全東樽屋町

南部屋兵卫

沱路岩屋浦江

第拾九號

岩屋浦竊細株二十疊、取定、事

覺

一此度其浦傍右工門重兵工下申者竊地引新細郵帖仕出
申度旨額出額之通於被仰付者當時冥加銀郵百目指上
猶又運上銀之儀之是近有掛之竊細郵拾帖日、差上候
割合、以年々無滞指上可申旨額出候、付右之通被仰
付候、于、浦中故障無之哉、其方共手前相鍛候、知細代
尋、越、是、近、有、掛、之、細、郵、拾、帖、之、儀、每、々、不、便、之、付、而、人、額
出候通於被仰付者猶以存候、之、儀、事、難、相、調、郵、拾、帖、之、細
主、之、初、浦、中、一、統、至、極、迷、惑、仕、旨、依、之、而、人、申、出、候、通、當、時
冥、加、銀、郵、百、目、无、運、上、銀、之、儀、之、割、合、之、以、郵、帖、分、相、増、郵
拾、帖、之、細、主、共、之、指、上、可、申、旨、新、細、郵、帖、仕、出、之、儀、以、指
尚、被、下、度、旨、尤、此、段、仰、申、届、於、被、遣、之、此、後、細、株、郵、拾、帖、之

御極ノ置被下度旨書付ヲ以重々申出候ニ付右書付御
 仕置所ノ差上候如古細共初浦中一統迷惑仕身ニ候得
 此度儀右工門重兵衛親出候新細仕出入等御許容不
 被成紙面御差戻被成候ニ付其方共申出之通當時冥加
 銀即百目荒連上銀ノ儀ニ即拾帖、細主共是匠差上候
 割合ヲ以即帖分相増此後被召上候儀之以來永々細株
 即拾帖ニ御極被遺候ニ付為後証即御奉行墨付遺候様
 御仕置細田九郎兵衛殿被仰渡候ニ付拙者共証文遺候
 如件

御奉行助役

明和四年十二月廿一日

川田一右工門

黒部興次太夫

岩屋浦庄屋

茂八郎方八

左

宇右工門方八

左 三年寄

太師太夫方八

左

五人興共方八

茅卸拾號

鯨漢三廿海鯨追之細其他三種漢業

制限約束ノ事

約定書

金銀相當
印納貼用

一金三百六拾円也

右者岩屋浦細竹場ニ於テ鯨漢之業明治十五年ヨリ来ル
廿四年寒明十五日迄右竹金正ニ請取其許中ハ漢業為相
稼候所實正也此ハ上ハ右年限中左ノ漢業差ニ留メ決メ
テ妨害為致間敷候尤右浦内故障無之ニ付為後日約定証
如件

第一條

一唐細漢

是ハ每年春彼岸ノテ夜業ハ必又差留可申事

第貳條

一、ヲイカテ並ニセ、リ及ニ脊高立テ細ノ類
是ハ毎年寒期十五日迄夜業差留可申事

第參條

一、總テ右鰯漁業上ニ相對シ其妨害ヲナスヘキ者ハ漸次
至当ノ所置ニ行フヘキ事

第四條

一、假令諸網ノ漁業スルキ時期ニ際スト虽比睡カ右鰯相
見ハ候節ハ尚亦漁業差留可申事

第五條

一、右ニ通テ假更ニ取究メ申所如件

明治十六年二月二十日

岩屋浦惣代

二、水郡藏

外七名

全地方所奠

東根惣七

外拾四名

全浦

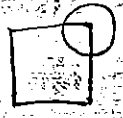
素名市藏殿

外七名宛

第貳拾壹號

岩屋浦貯蓄會申合ノ事

申合規約



岩屋浦之内漢業方ニ係ル諸上納金及ニ浦費共納期毎ニ
 徵收相成ハ勿論ノ所近來不漢打統キ末々ニ相至リ候テ
 ハ自宅ニテ引陳置キ上納ノ義難相整中尋以上ニ位置ヲ
 占ル者モ世上志願ノ不景氣ニテ融通ノ道ヲ塞キ相民ノ
 義務ヲ負擔スルノ情已ニ絶テ貧民尋一入困苦ニ迫リ毎
 期狼狽ノ末公賣處分ヲ受ル尋統々輩出ニ実ニ惘然ノ状
 第ニ有之加フルニ此度捕魚採樵稅被相定本年度ヨリ御
 施行相成ルニ付テハ稼方ニ於テ一層尽力不致テハ難叶
 場合ニ相成候ニ付一同熟議ノ上一月ニ兩度宛引揚ヲ
 爲シ其價額手額ヲ左ノ方法ニ基キ積立是迄ハ不納ヲ始

又自今諸上納金帳議費等之支拂之充ル時ハ徵收ノ期ヲ
過ラヌ隨テ上下ノ手教ヲ省ク兩全ノ便利ト相心得則帳
議決定ノ条款左ノ如シ

第五條

一 每年三月ヨリ十一月迄九月間一月二月三月兩度引揚

ヲナシ其收穫ノ高ク折半ニ半額ヲ積テ置残ル半額ヲ

第六條

一 当日受取候事
但是日ハ引揚金迄円以上ル者ハ其上ノ金ハ即日

第七條

一 引揚之日限ハ陰曆之三日十六日ト相定メ當日風雨等

ニテ稼雑出来時ハ日送りニ致シ若シ事故アル時ハ組

惣代ヨリ戸長ニ共議シ上申縮スル事アルベシ

第八條

一 引揚奠ハ其前日夕方入札ヲ以テ相場ヲ相定メ奠價ノ

旨否ハ組惣代之レヲ定メ又指名ノ奠船ハ賣却為致候

第九條

一 引揚奠ハ札金ハ二日以内ニ戸長役場ハ相納候事

第十條

一 組惣代ハ小荷ニ於テ此引揚方法ヲ設ケタル所以ヲ衆

知シテカラ一巳ノ利益ニ迷テ併合之拔ケ賣或ハ自宅

ニ持帰り賣却スル等ノ不正ヲ為サル様取締リ勸善懲

懲ヲ旨トシ懇篤獎勵スル事

第十一條

一 新組惣代細細細細ノ義ハ時々戸長浦惣代帳議ノ上臨

第十二條

一 新組惣代細細細細ノ義ハ時々戸長浦惣代帳議ノ上臨

期引揚ヲナサシムル事

第七條

一此規約連署ノ者ハ違反無之者ニ候得共尚違反無之様
互ニ注意致左ノ條項ハ決ニテ犯ス間敷若シ此項目ヲ
犯ス者ナリ時ハ組惣代或人以上立會事實取調ノ上左
ノ違約金ヲ取立候事

但シ違約者見聞ノ申出ハ何人ニ限ラズ戸長役場又
ハ組惣代へ可申候者違反人之取調ヲ去ス際時機ニ
ヨリテハ戸長役場浦惣代ノ内ニ召連レ出ツル事
ルベシ

一 金壹円

違約金

内 五拾枚

見聞申出人ハ賣典
別途積置金

一引揚ノ当日獲タル魚ヲ落札人又ハ指名ノ魚船ハ不
賣渡モノ

賣渡モノ

一當日無謂沖立不致又ハ沖立スト虽此漁業不致或ハ
魚ヲ隠匿ニテ持帰り他ニ販賣スルモ
附タリ違約ノ為ニ起ル費用ハ其違反者ノ負擔ナ
ル可キ事

第八條

一引揚ノ當日組惣代ハ自分又ハ臨時雇ノ者ヲ以各丁突
撃場ヲ巡回シ無謂沖立セサル者ハ懇篤説諭ニ執業為
致聞入ルガハ者ハ違約ノ責不免候事

但シ此場合ノ違約者ヲ戸長役場へ申出候節ハ組惣
代臨時雇共都テ尋常見聞届出全斷賣共スルモノト
ス

第九條

一引揚之吉日、番帳若干ヲ差出シ又ハ不取締アリト見
 認ル時ハ、戸長役場支負之内又ハ浦惣代等臨時出張実
 際取調果シテ違約者ナリ時ハ、前全所違約金ヲ差出候
 事

第拾條

一諸上納金村費共、戸長役場ヨリ切符ヲ発シ又ハ時ハ、銘
 一配賦書ヲ全役場ハ持參計集シ領收、証ヲ受取候事
 第拾壹條

一右取扱諸費左ノ通相定メ總高金、内ヨリ仕掛ノ事

金取拾貳宛 組惣代老人日給

金 組惣代取扱費

一但実費戸長役場認可ヲ受ル事

一 番昭先臨時雇ノ給

但実費右全銜

第拾貳條

一戸長役場ニ於テハ、毎年十二月ニ到リ、漢收金ヲ入別計
 業相建諸納金村費支拂差引帳ヲ製定シ過金ハ入別差
 戻候事

第拾參條

一右之方法ヲ以テ取締向ハ、戸長役場ニ依拠ス

第拾肆條

一右條之今般各自候、議決定致シ候ニ付、一同記名調印後
 証ノ爲メ、戸長役場ハ預テ申所如件

津名郡岩屋浦漢業者

明治十八年八月廿四日

一同連署

第貳拾貳號 瀬戸瀬湊場 二 村机浦 卜 播磨國明石
郡前瀬新瀬 卜 韋論裁判ノ事

申上覺

一 今日私共並相手方一統御評定所へ被為召於御白洲右
京亮様被為仰渡候ハ其方共湊場出入之儀裁許申渡候
条兼候様御意被為遊御手控ヲ以相手方両濱ノ若共湊
場境無之由、申出難兼用矣湊様ノ境訴訟方申出之証
據等ヲ以相立遺候老訴訟方之若共申出之松尾鼻一、
谷山裾目当ニ之テ北ハ見通申段難兼用依之今般机浦
沖圭境大根州一、谷山裾卜 淡州松尾鼻卜 左右ニ見
瀬戸湊中ヲ真五ニ讀州小豆島卜 鋸山ノ間ヲ見通ニ机
浦持場卜 心得両濱ヨリ以來立入間敷段被仰渡奉畏引
退候次河田藤右之門様被仰付候ハ御裁許書物御請判

往候様破仰付双方印形往候字左之通

差上申一札之事

私共出入即吟味之処海面町敷等就難而決為地改仰付官
 蒙宣之即様布施孫三即様而仰付代中被差遣被逐仰紀明
 候処相子而濱之若共傳諸仰用、浦役船仰他領迄相動候
 邊何方へ沖へ入心候由へ自己へ極へ之難而取用既迄
 浦同領林村へ之毛漢業致渡世浦役船相動候得共宝曆年
 中東二見村へ出入節西手へ加右明石而郡境ヨリ濟州
 江井浦見通し東へ方へ濟州松尾へ鼻へ提州へ、谷山裾
 下喉合ヨリ目当二不之夫ヨリ真直之西へ見通し南手へ
 濟州路北手へ明石領分へ心得右構内へ一岡林村漢場之
 旨大坂町仰奉行所へ申立候段其節、仰裁許証文仰紀之
 上無相遺其後東二見村ヨリ申出候節有之尚又仰紀の上

鹿ノ瀬兩線ヨリ沖手へ入合、積り安永年中仰裁許有之
 候得共何レニ毛林村へ之沖手へ境有之趣、申立之
 其上元禄年中岩屋浦へ為取替証文ニ毛兩濱進退之漢場
 下兼之極り居地ニ有之趣、文面ヨリ相見へ殊へ机浦ニハ
 沖手持場境有之假場所へ引合候書面ニ有之候上ハ旁海
 上漢場境無之勝手へ入心度由、兩濱申分難立許証文ニ
 之毛松尾出之ヨリ西へ方へ見通し申立通之テハ瀬戸ノ
 方喉合之見通し筋へ振候上ハ小豆島北手ヨリ見通し境ノ
 由ハ難而取用候依之被仰渡候ハ机浦ヨリ沖手へ棄出シ
 東之方濟州松尾鼻へ提州一、谷山裾へ左右へ見喉合ヨ
 目当ニ瀬戸中央ヨリ見通し西へ讀州小豆島へ鋸山ノ間ヨ
 見通し右東西へ見渡り沖手ノ境ニ極り東へ方へ暮浦大
 石ヨリ明石旧波戸ヨリ見通し西へ方へ斗ノ内浦境西川ヨ

小播州曾根ノ見通ニ在境之内ヲ机浦持場ノ心得互ニ境
 ヲ越渙業ノ立入間敷且兩濱ノ淡州岩屋浦ノ元録年
 中為取替証文ニ有テテ故机浦持場外ノ義ハ右見通ニ境
 ヲ越而濱ノ立入候トモ机浦ニテ不差障取右ハ国境ニ
 ハ無之全ノ真場様場ノ境ニ付其旨双方トモ心得違不致
 船役等ノ仕来ノ通双方トモ可相勤被仰渡ノ趣一同兼知
 奉畏候若相背候ハ、重料可被仰付候依テ而請証文差上
 申如件

寛政七卯年七月廿五日

硬師惣片

在兵衛

松平阿波守領分

沓路国津名郡机浦

誦証方 庄屋 記 兵衛

立入典 次右工門

松平左兵衛枕頭分

外取名

播州明石郡前濱

相手方 庄屋 祓次右工門

組頭 長兵衛

新濱

庄屋 勘 兵衛

組頭 久 兵衛

外一名

市評定所

第貳拾三號 鹿山瀬濱場ニ付播磨國明石郡濱村

約束ノ事

條約書

第壹條

濱路國机斗ノ内育波室津ノ浦ノ地細代播磨國林村新濱
前濱(時津村)内前濱(時)磯濱場後兼浦村柵場限ハ浦貞採藻
共營業致シ他ヨリ入込根ニ相稼申間敷事

第貳條

濱ノ地方ハ播ノ新濱前濱ヨリ海鯽繩八ハ、義陰曆節分
后四十日ヨリ日教六十日限リ相稼可申事

第參條

濱ノ地方ハ播ノ新濱前濱ヨリ鯨押漢ノ義陰曆十一月ヨ
リ翌年二月迄日教百二十日限相稼可申事

富島
村

第四條

濟ノ地方ハ播ノ新濱前濱ヨリコ口繩ハハノ義陰曆六月ヨリ日教元十日限り相稼可申事

第五條

濟ノ地方ハ播ノ新濱前濱ヨリ夜手操細ノ義陰曆五月ヨリ日教百十日限り相稼可申事

第六條

濟ノ地方ハ播ノ新濱前濱ヨリ夜釣業ノ義陰曆六月ヨリ日教六十日限り相稼可申事

第七條

播ノ地方ハ濟ノ机斗ノ内育波室津ノ各浦ヨリ鹿ノ瀬ノ内字横瀬以西字ウツ迄ニ於テ調ガ子細ノ義陰曆節分后九十日ヨリ夏土用入八日前迄秋ハ彼岸明キヨリ相

稼可申事

但濟ノ机浦ヨリ鯛ガ子ノ義ハ字沖ノヒジヨリ根州摩耶山ノ脊ニ当ルニ子山ノ北端播ノ林村上ノ宮ノ森ハ掛心瀬筋ヨリ北ニアル播ニ云高倉ノ瀬見ニ於テハ夜令以流ノ都合タリ凡決テ相稼キ間敷事

第八條

播ノ地方ハ濟ノ机斗ノ内育波室津ノ四浦ヨリ鹿ノ瀬ノ内字横瀬以西字ウツ迄ニ於テ引倒ヒ細ノ義甲年ハ陰曆十月申節ヨリ相稼七年ハ右同申節五日後ヨリ隔年交日稼初可申事

第九條

播ノ地方ハ濟ノ机斗ノ内育波室津ノ三浦ヨリ鱒臺畝鱒貝稼ハ鹿ノ瀬ノ内横瀬ヨリ西ニテ瀬縁サニ離ル南ノ方ニ

テ漬込ハニテ字(播云云 青山出)ヨリ西ハ瀬ノ北ハ漬込ニ
好ナニ飯蚰貝ハ字(精音出)ヨリ東ハ越ハ北ノ方ハ漬込

丁ヲルベシ
但作ノ机浦ト播ノ林村ハ鱒壺飯蚰貝共漬込場後未惣

和管業候ニ付爰ニ贅セス
第拾條

釣業及鱒釣コト相掛テ漢ノ邊ハ漢播何ハハ場所ヲ不同互
ニ相稼可申事

第拾壹條
前條々約定ノ外新業不許ト雖比漢播共各持場ニ於テ漢

民何業相稼候共妨テ事
第拾貳條

前條々漢業ノ邊諸業ノ障碍ナラサル様互ニ注意ニ相稼

ハキ事

第拾三條

野細業ノ邊漢ハ地ノ瀬(播云云)播ハ鹿ノ瀬(漢云云)ニテ相
稼ハキ事

但魚獵ノ多寡ニ因リ管業上差同ル時ハ漢ヨリ鹿ノ瀬
播ヨリ地ノ瀬ニ於テ稼方ヲナス其際熟議ヲ遂ケ毫モ

私意ヲ挟マズ且ニ義務ヲ尽スベシ
右者明治八年五月中漢州机浦播州新濱魚漢ノ邊ニ付引

縫ニ出来及上申候処内務省官員及縣官御出張實地慣行
調査ノ上旧書類御携歸リ相成候後未タ御指揮無之處今

般双方漢夫縣廳ハ御召出ノ上官ノ處分ヲ仰キ双方慣行
タル引証ヲ以テ之ヲ審理スルニ當リ結果稼方ニ於テ双

方共御テ差同或ハ御面以流弄ノ都合ニテ實際難行場合

毛有之寧口交ヲ帳議三月ニ持来ノ稼上ニ就キ無事ヲ保
 ツニ如カ之軍ニ穩守可相稼ヲ旨トシ往昔ヨリ確証及互
 ニ旧慣ヲ証左アルニ暫ク之レヲ不問ニ置キ交誼ヲ尽シ
 營業候様熟議可致旨御論達ニ付其意ニ基キ又覆合議ニ
 前条ノ通條約候上ハ向石睡無違論互ニ親睦營業可致候
 在テハ地方播ノ地方ノ條々中ニアルハ及之談タル者ナ
 レハ將來澳場境界ノ事ニ付紛議等起リ候節ハ訂証ヲ以
 テ互ニ分別有ルベシ候テ為後証書物為取換候處相違無
 之候也

明治十一年十二月十九日

播ノ國第一大區一小區林
 村澳夫惣代
 福井市郎兵卫

外巻名

戸長

濱名長衛

播ノ國第一大區一小區新

濱澳夫惣代

新田喜兵卫

外巻名

戸長

久嶋元治

播ノ國第一大區一小區我

町ノ内前濱澳夫惣代

川崎英兵卫

戸長

河合

梶

之有之寧口之ヲ候議三月に將來ノ稼上ニ執事無事ヲ係
 ツニ如力之申ニ種守可相稼ヲ旨下ニ往昔ヨリ確証及互
 二旧慣ノ証左ヲ凡テ勘外之レヲ不問ニ置キ交誼ヲ尽シ
 營業候様熟議可致旨御論達ニ付其意ニ基キ又覆合議ニ
 前条ノ通條約候上ハ向所無違論互ニ親睦營業可致候
 尤濟ノ地方播ノ地方下條之中ニアルハ候ニ該タル者ナ
 レハ將來澳場境界ノ事ニ付紛議等起リ候節ハ判証ヲ以
 テ互ニ分別有レバ云候ヲ為後証書物為取換候處相違無
 之候也

明治十一年十二月十九日

播ノ國第一大区三小区林
 村澳夫惣代
 福井市郎兵卫

外巻名

戸長

濱名長衛

播ノ國第一大区一小区新

濱澳夫惣代

新田喜兵卫

外巻名

戸長

久嶋元治

播ノ國第一大区一小区我
 町ノ内前濱澳夫惣代

川崎共兵卫

清以ハハ字(播ノ國第一大区一小区)
 清以ハハ字(播ノ國第一大区一小区)
 清以ハハ字(播ノ國第一大区一小区)
 清以ハハ字(播ノ國第一大区一小区)
 清以ハハ字(播ノ國第一大区一小区)

播六國第一大区二小区當

津村、内出崎漢文惣代

濱崎浪郎吉

戸長

八木稼八

津路國第二大区九小区机

浦漢文惣代

島田一郎

外郎名

戸長

内清藏

津路國第二大区十小区斗

、内浦漢文惣代

柏木玄吾

外郎名

戸長

田中邦郎

津路國第二大区十小区音

波浦漢文惣代

鍋島藤次郎

外郎名

戸長

島田英十郎

津路國第二大区十小区室

津浦漢文惣代

風文次郎

外志名

戶長

濱田官

前書之通條約相整候ニ付遂與書各村浦へ書部宛相渡置
候也

播磨國明石郡第一區三
小區々長

重田寛載

全國全郡全大區一
小區々長

美濃部寛

陸路國第二區副區長

鈴木三郎

第一拾四號

富島村漁場へ野島村釣漁業者ヲ
テ入漁セシムル約束ノ事

條約書

第一二大區九小區
養浦村

廣岡清吉

崎崎平吉

上村貞左工門

野島林兵卫

合

- 一金四拾錢
- 一金四拾錢
- 一金四拾錢

右者拙者共多年來釣漁業ヲ以テ糊口ノ取凌居申ニ付テ
ハ今般示談ノ上机浦有漁祭典費其他漁業ニ係ル諸費用
ノ内其内トシテ書面ノ通り年々十一月指出可申勿論龍
神祭典日ハ該浦同様休業可致在以後釣漁業ノ外ニ無打

合外漢業相當申間數且又一般師規則相立机浦漢場是迄
通三ノ莫漢稅師指定ニ相成候節ハ該浦釣漢業ノ若同所
收稅可致候依ニ為後証當村更持副戶長奧印申請相復條
約証如件

明治十年十月

第二六區九小區巖浦村

廣岡清吉

外三名

同區机浦惣代伍長

島田惣吉殿

外町名宛

副戶長

前書ニ通相違無之候也

奥野吉右工門

系

第貳拾五號

○ 鯉子細使用停止規約ノ事

鯉子細使用停止規約書

近來鯉艘ゴ子細ト稱スル漁具ヲ以鯛敷等ヲ捕獲スル者アリ然レテ該細ハ在來ノ漁法ニ比テ漁獲多キカ如クト
 虽此他ノ漁業ノ妨害トナルニ因リ明治十八年九月富島
 斗ノ内育波室津郡家畜井ノ六ヶ村漁夫規約ニ此六ヶ村
 漁夫故障ヤル場所ニ於テ該細使用ヲ停止ス明治十九年
 七月尾崎村漁夫新ニ加盟シ各村全様同盟七ヶ村漁夫ノ
 故障ヤル場所ニ於テ該細ヲ使用セザルヲ約ス依テ連署
 ニ正成各書通充交換スルモノ也
 但ニ此規約ハ本件ノ外他ニ關係ヲ及ボサルモノト
 ス

津名郡富島村漁夫惣代

系

明治十九年七月二十日 日野嘉平次

外郎名

全郡斗内村漢丈惣代

濱田 太平

外郎名

全郡育波村漢丈惣代

西濱 源七

外郎名

全郡室津村漢丈惣代

松下 益藏

外郎名

全郡尾崎村漢丈惣代

松浦 宗平

外三名

全郡之家村漢丈惣代

志智 重吉

外郎名

全郡壱井村漢丈惣代

大塚 平五郎

外郎名

第貳拾六號 鯛手操細夜中使用停止規約之事

鯛手操細夜中使用停止規約書

近來夜ゴ子ト稱ニ鯛手操細(一名細)ヲ以夜中使用致昼間
本業ノ妨害不サニ付豫テ各村ニ於テ制止致ニ有之候得
共尚確實ナラシムル為メ今般更ニ富島斗ノ内育波室津
尾崎郡家畜井ノ七ヶ村漁夫申合セ該細夜中使用ハ一切
停止ス候テ連署ニ正本各邑通宛交換スルモノ也
但此規約ハ本件ノ外地ニ關係ヲ及ボサハルモノトス
津名郡富島村漁夫惣代

明治十九年七月廿日

日野嘉平治

外郎名

全郡斗ノ内村漁夫惣代

濱田太平

兵庫博

全郡育波村漢丈惣代

外郎名

西濱 源七

外郎名

全郡室津村漢丈惣代

松下 益藏

外郎名

全郡尾崎村漢丈惣代

松浦 宗平

外三名

全郡々家村漢丈惣代

志智 重吉

外郎名

全郡番井村漢丈惣代

大塚 平五郎

外郎名

第貳拾七號

育波村斗、内村、漢場、章論、落着、

漢場、章論、規約、消口、書、互

仕、上、消、事、書、之、事

一、育波浦斗、内浦漢場、渠目、章論、二、相及、申所斗、内浦斗

奉、頼、上、候、二、付、各、様、御、調、子、仰、嘆、被、仰、付、御、越、被、成、地、方

沖、合、共、御、精、密、二、御、調、子、上、種、々、御、理、解、被、仰、聞、双、方、帰

服、仕、兩、浦、漢、場、渠、目、相、究、申、所、左、ノ、通、二、御、座、候

一、沖、合、納、盡、漬、申、渠、ノ、事

但、論、細、代、上、ノ、端、納、納、大、般、破、場、ヨリ、百、七、十、尋、下、手、ハ

寄、申、所、ノ、相、定、ノ、夫、ヨリ、上、手、ハ、斗、ノ、内、浦、漢、場、丈、ヨリ

下、手、ハ、育、波、浦、漢、場、ノ、相、決、申、候、右、論、細、代、上、ノ、端、ヨリ

育、波、村、田、吉、兵、上、松、ハ、同、村、下、宮、真、重、リ、見、通、地、方、四

兵、庫、集

町程寄申所ニテ撰州一ノ谷ニヨリ大綱ト申山江
 崎ハ隱申所迄ハ張前段ノ通百七十尋下手ハ斗ノ
 内浦ヨリ蛸壺漬申答夫ヨリ地方ハ不殘入相
 右論綱代上ノ端ヨリ沖手即町半程ノ間前段下ノ宮ト
 告兵五松ト真重筋ヨリ百七十尋下手迄斗ノ内浦ヨリ
 蛸壺漬申答夫ヨリ
 右則町半程沖手ハ寄候所ヨリ沖合ノ義ハソ口告ヨリ
 播及島根山見通筋ヨリ下手ハ百七十尋ノ間ハ前同前
 斗ノ内浦蛸壺漬申答夫ヨリ
 右境目相立ニテ下手沖合ノ義ハ育波浦蛸壺漬申答夫
 地方ニテハ双方入相ノ事
 一 濱手境目ノ義ハ大谷ヨリ上ハ斗ノ内浦下ハ育波浦ト
 相定申事

但大谷ヨリ曾路各濱大石迄八十尋ノ間ハ地引蠲漢
 西浦入相ノ事

一 前段尋數ノ義ハ五尺ニテ是尋ト相定候事

一 前段環目夫々尋數絃圖ニ相認且又書物ニ兩浦庄屋五

人共澳師頭印形相加ハ其上御噴人御象中御與印申請

兩浦ハ取替所持仕申上者向石塚目紛敷義モ有之節ハ

西浦役人立會書物絃圖ヨリ以相定申事

但本文絃圖ニ枚相認内是枚者御郡代様ハ指上殘貳

枚ハ西浦ハ是枚宛為取替所持仕

右ハ今般西浦漢場堀章論ニ成候ニ付各様御越被成種々

御調子ノ上御噴被仰付兩浦漢師共一統帰服仕前条ノ通

相極申所相違無御望候然ハ上者後々年ニ至候トモ申申

分故障無御座候万一右定書ノ表遺背ニ相及申若御座候

得若如何様仰答被仰付候于之邊或下申上間敷候間此段
直被仰工可被下候依之西浦庄屋五人共澳師頭連印仕書
付指工申及相違無御座候

謝訟方

斗内浦庄屋

文政七年申年八月廿八日

全浦五人共

文兵衛

外四名

澳師頭

權之丞

外三名

相子方

育波浦庄屋

清兵衛

全浦五人共

甚兵衛

外四名

澳師頭

楠右工門

外四名

志筑浦庄屋

島田源兵卫殿

安坂村庄屋同助殿同總領

信助殿

江井浦庄屋

綱右工門殿

右斗ノ内浦育波浦澳場塚爭論一併私共ハ取調子唆被仰
付奉畏候罷越重々行着右之通相片付候ニ付海口書物為
仕指上申候此段亘被仰上可被下候以上

志筑浦庄屋

島田源兵衛

守坂村庄屋周助惣領

信助

江井浦庄屋

綱右工門

津名御郡代様御手代

石濱徳右工門殿

第貳拾八號

尾崎村古来鰯漁業ノ営ミタノ事

寛延二己年申觸示之写

急々申觸覽

郡奉行ノ申達候事

浦々地引鰯運上銀處請有口一処ニ請込候処享保拾七年
 ヲリ地引分御手口ニ成其後ハ古来有来候外ニ地引鰯網
 仕候節者今度穿鑿ノ上古来ヨリ運上被召上浦分ノ網家
 生ニテモ古来ヨリ肴運上浦々荒島飼下村々田川村尾崎
 村ノ外地引鰯向後可為停止候段為觸候以上
 寛延二己年四月七日

實年三十一
 實年三十二
 實年三十三
 實年三十四
 實年三十五
 實年三十六
 實年三十七
 實年三十八
 實年三十九
 實年四十
 實年四十一
 實年四十二
 實年四十三
 實年四十四
 實年四十五
 實年四十六
 實年四十七
 實年四十八
 實年四十九
 實年五十
 實年五十一
 實年五十二
 實年五十三
 實年五十四
 實年五十五
 實年五十六
 實年五十七
 實年五十八
 實年五十九
 實年六十
 實年六十一
 實年六十二
 實年六十三
 實年六十四
 實年六十五
 實年六十六
 實年六十七
 實年六十八
 實年六十九
 實年七十
 實年七十一
 實年七十二
 實年七十三
 實年七十四
 實年七十五
 實年七十六
 實年七十七
 實年七十八
 實年七十九
 實年八十
 實年八十一
 實年八十二
 實年八十三
 實年八十四
 實年八十五
 實年八十六
 實年八十七
 實年八十八
 實年八十九
 實年九十
 實年九十一
 實年九十二
 實年九十三
 實年九十四
 實年九十五
 實年九十六
 實年九十七
 實年九十八
 實年九十九
 實年一百

第貳拾九號 尾崎村寛文年度棟付帳 尾崎村事

獵師喜一郎伯父

一 小家 五兵衛 歲三拾八

喜人 五兵衛弟 四郎兵衛 同廿一

獵船志艘

獵師左之助親

一 小家 理右工門 歲五拾二

喜人 左之助弟 五郎 同廿七

此者去冬ヨリ尻ヶ崎五兵衛卜申者ハ船カ一寺仕備
 前ハ参リ戻不申候

喜人 五人弟 六 同拾三

喜人 五人弟 七 同拾ヲ

牛志天

獵船志艘

獵師四郎右工門親

一小家

三郎右工門

歲八拾九

一小家

左人兄

理兵衛

同六拾四

一人

理右工門子

傳右工門

同廿四

一人

左人子

山岩

同廿

一小家

獵船志艘

獵師左工門親

一小家

清太夫

同五拾七

一人

清太夫子

三郎

同拾六

一人

此者寬文拾年ヨリ拾年切全郡岩屋浦孫一郎へ遺候

一人

四郎

同拾三

此者寬文拾年ヨリ拾六年切全郡生穂村〇大工助

右工門子三遺文

一人

四郎弟

六

同八

一人

左人弟

七

同五

獵船志艘

獵師九右工門伯父

一小家

仁兵衛

同四拾

獵船志艘

獵師八郎兵五弟

一小家

六右工門

同四拾六

一人

六右工門子

六郎

同拾三

一人

左人子

三

同五

獵船志艘

獵師惣太夫弟

系

一 小 家

老 人

獵 船 老 艘

次 郎 兵 子

次 郎 兵 子

同 六 歲 四 拾 二

一 高 家

老 人

獵 船 老 艘

七 郎 兵 衛

七 郎 兵 衛

同 七 廿 七

一 高 家

老 人

獵 船 老 艘

同 拾 四

同 拾 四

同 拾 四

一 高 家

老 人

獵 船 老 艘

同 六 拾

同 六 拾

同 六 拾

一 小 家

老 人

獵 船 老 艘

甚 太 夫 子

甚 太 夫 子

同 廿 七

此 者 寬 文 六 年 日 郡 家 浦

方 入 聲 二 參 日 居 候

甚 太 夫 子

老 人

獵 船 老 艘

甚 太 夫 子

甚 太 夫 子

同 廿 一

老 人

獵 船 老 艘

甚 太 夫 子

甚 太 夫 子

同 七 拾

右 八 今 般 棟 人 元 年 教 師 尋 二 付 誓 紙 以 于 帖 面 指 上 候 〇
毛 頭 相 違 無 仰 座 候 万 一 卷 葉 一 人 元 歲 教 家 教 牛 馬 船 教 引
隱 有 体 〇 不 申 上 候 後 日 〇 御 聞 付 被 相 成 候 八 〇 私 共 曲
事 二 可 被 為 仰 付 候 為 後 日 書 面 加 件

尾 崎 村 庄 屋

寬 文 拾 三 年 二 月 拾 七 日

彦 太 郎

全 前 年 寄 五 人 共

傳 兵 卫

五人共 芳 兵 五

伊右工 門

善右工 門

彦二 郎

左次 平

近藤共市兵五様

津口新五郎様

支野覺兵五様

牧 治兵五様

第三拾號

尾崎村五ノリ郡家村ノ漢業ニ月約束ノ

事

覺

尾崎村

一手繰細 吉帖 細長七尋

清 九 郎

一夜引細 吉帖 細長四拾六尋

全 人

沖合付四尺五寸

但已夏ノ頃夜分ニ獵事仕答

一踏ノノ 網長五而尋

全 人

一舟付 網長四而尋

全 人

一食たノノノ 網長四而尋

全 人

於以數百

一食たノノノ 鉄交

全 人

一藻引網

長七尋

全

人

一手繰網

長七尋

全

人

一夜引網

長七尋

全

人

一細長四拾五尋

長七尋

全

人

一網長四百拾五尋

長七尋

全

人

一網長四百拾五尋

長七尋

全

人

一網長四百拾五尋

長七尋

全

人

一網長四百拾五尋

長七尋

全

人

一網長四百拾五尋

長七尋

全

人

一網長四百拾五尋

長七尋

全

人

一網長四百拾五尋

長七尋

全

人

一手繰網

長七尋

全

人

一夜引網

長七尋

全

人

一網長四百拾六尋

長七尋

全

人

一網長四百拾六尋

長七尋

全

人

一網長四百拾六尋

長七尋

全

人

一網長四百拾六尋

長七尋

全

人

一網長四百拾六尋

長七尋

全

人

一網長四百拾六尋

長七尋

全

人

一網長四百拾六尋

長七尋

全

人

一網長四百拾六尋

長七尋

全

人

一網長四百拾六尋

長七尋

全

人

一網長四百拾六尋

長七尋

全

人

一網長四百拾六尋

長七尋

全

人

獵船三艘所持往居候

右之通當村小獵師共所持ノ獵具相改書付指出申候尤右

三名ヨリ外村人ノ内獵師為仕申間敷候尤右之通ヨリ外

右三人ノ獵具仕出表申様ニ可申付候為後日獵具書付仍

テ如件ニ御座候事

尾崎村庄屋

幸作 郎

寛延四年四月十九日

全浦五人共

淺之助

外四名

郡家浦

公印兵衛殿

全浦

五人組中

第三拾壹號 尾崎村郡家村 漢業章論裁判事

第一號 第貳百拾三號

裁判言渡書

兵庫縣泮路國津名郡

井村及同國郡家村漢業

惣代理

原告 小泉健一

外郎名

全縣全同全郡尾崎村平

民

被告 永井根藏

外郎名

地電敷網指止以訴訟審理判決如左

系

原告於明治六年四月十九日付尾崎村庄屋幸作外五
 名ヨリ郡家浦八郎兵卫及同浦五人組へ當テ其約定書
 並明治六年以來ノ縣達等ヲ授リ古來ノ慣習アリトシテ
 本訴被告於テ所有スル敷細ノ使用ヲ指止メ度旨請求ス
 ルト雖比第一寛延年間兩村ノ約定書ナレモハ今尚其
 結約者ノ誰タルト及該契約ノ成立トハ之ヲ明知シ難キ
 最モ不確實ナル証書ナレト付之ヲ以テ夫ノ濫ニ濫ニ換
 業ヲ以テ生活ヲ營ムニ至使テ凡尾崎村ニメ古來敷細ヲ
 使用スルヲ得サレ慣習アリトハ認定スルニ由テテ第一
 原告於テ提供スル明治六年以降ノ縣達ハ專ラ細代田域
 ニ関スル布達ニシテ毫モ本訴ニ關係ナキモノトス第二
 原告於テ被告ハ本件記訴以來俄ニ所有ノ敷細ヲ細細ニ
 變造シテアリト云モ終ニ外形ノ敷細ニ類スルヲ以テ直ニ

之ヲ細細ニアラスト速断スルヲ得サレハ勿論既レテ該
 細ヲ檢スルモ其中間莫ク容ル、ノ場欠ニ至テハ純然タ
 ル細細ニ異ナラス尚且俄ニ之ヲ變造シ若クハ變造以前
 ニ在テ敷細トシテ使用シタル確實ナル証據ナキニ於テ
 ヲヤ

右ノ理由ナレヲ以テ本訴原告ノ請求ハ相立タサルモノ
 トス依テ訴訟入費モ成規ニ照ラテ原告ノ負擔タルベシ
 明治十六年十二月廿八日

神戸地審裁判所副本支廳

兵庫縣便業慣行錄參考書卷之十三終

兵庫縣